

大泉病院

医療法人

練馬区大泉学園町 6-9-1

措置・応急指定病院

TEL 03-3924-2111

精神科病床:5 病棟 240

専門病床:精神科救急 96

開放病床 48 閉鎖病床 192 保護室 12

デイケア・デイナイトケア実施

総合点 29 点

今回は 2013 年の総合点 29 と項目別の点数も同じで高い得点を維持し続けている。

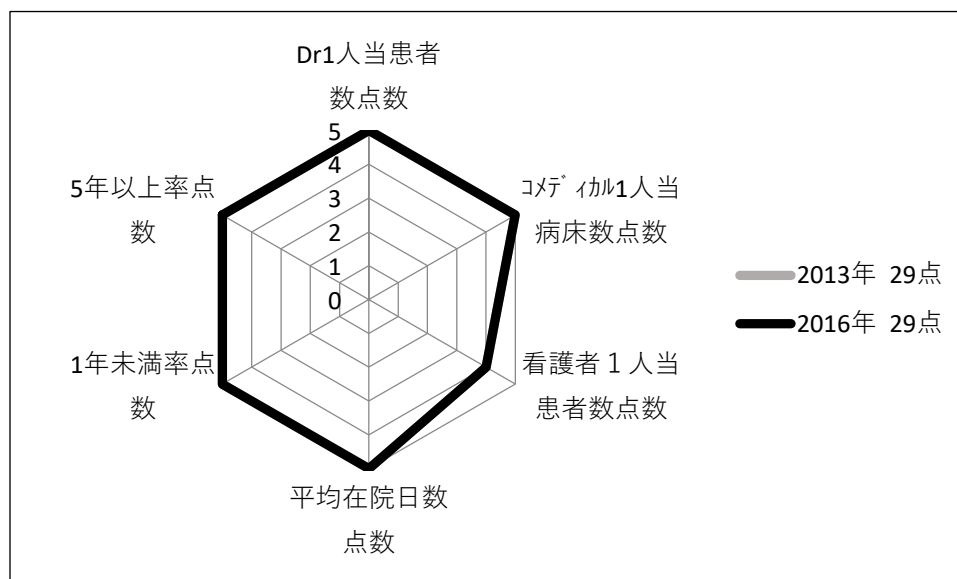
開放病床が半分の 48 床に減った。

職員充足度はコメディカルが相変わらず 5 点と高い。入院形態別でみると、医療保護入院が 116 名と全体の 56% を占める。また開放が減ったためなのか、任意の閉鎖率も 67% と高くなった。隔離患者 12 名・身体拘束 5 名。

平均在院日数 80 日(都平均 217 日)。軽快での退院率は 80% と高い。全体の 66% を占める統合失調症患者の平均在院日数は 101 日(ちなみにアルコールによる患者は 38 日)。また、医療保護入院で 1 年未満での退院は 91 名。20 年以上入院率は 2% (4 人) だった。

練馬区は埼玉県南西部の地域(新座市・朝霞市・和光市など)と隣接しているという立地の面からいっても、4 分の 1 の患者が都外に住所地を持っている(都内 152 名・都外 51 名・不明 3 名)。*朝霞市にはサテライト・クリニック有り。

前年 6 月入院者の転帰は 86 人で転院率 0% (0 人) だった(都平均 15%)。死亡退院も 1 人(年間でも 4 人)。家庭復帰が多く数字的には良い。



陽和病院

医療法人

措置・応急入院指定

練馬区大泉 2-17-1

TEL 03-3923-0221

精神科病床:6 病棟 328

専門病床:精神科救急 96

開放病床 66 閉鎖病床 262 保護室 14 施設できる個室 19

デイケア・ナイトケア・デイナイトケア実施

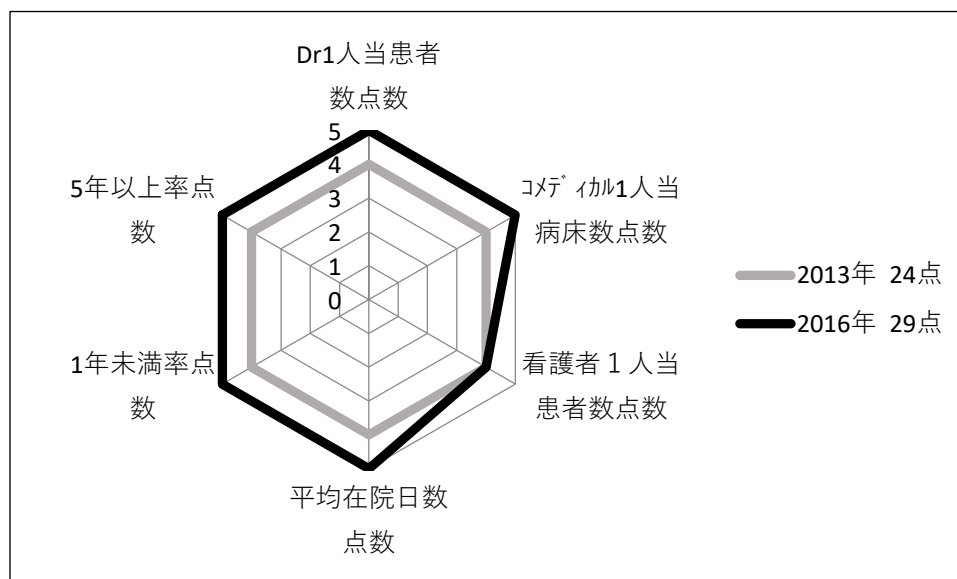
総合点 29 点

2013 年と比べると、活動性については、平均在院日数 127 日から 105 日、統合失調症入院者についても 141 日から 120 日へ、1 年未満入院者率 58%から 68%へ、5 年以上入院者率 22%から 15%へと全ての指標で点数を上げている。スタッフについては、医師 19 人は変わらず、コメディカル 22 人から 28 人と増えているが、看護者は 179 人から 173 人と減っている。

病床数を 396 床から 328 床に更に減らしている。精神科救急病棟を 1 棟 48 床を 2 棟 96 床に増やし、急性期治療・老人精神病棟をなくしている。開放病床を 128 床から 66 床へと更に減らしている。それに伴い任意入院者は、45%から 37%に減り、任意入院者の閉鎖病棟入院率は、57%から 67%に増えている。2013 年に 21 人、6%となっていた隔離患者数は、7 人、3%と減っている。

6 月一ヶ月間の退院者をみると、退院者の 97%が 1 年未満で退院しており、14%が転院となっている。

ホームページによると、2018 年に認知症・高齢者対応病棟 60 床を開棟している。



成仁病院

医療法人

措置・応急入院指定

足立区島根 3-2-1

TEL 03-3605-4490

精神科病床:3 病棟 114

専門病床:精神科救急 44

開放病床 0 閉鎖病棟 114 保護室 17 施設できる個室 22

デイケア・デイナイトケア実施

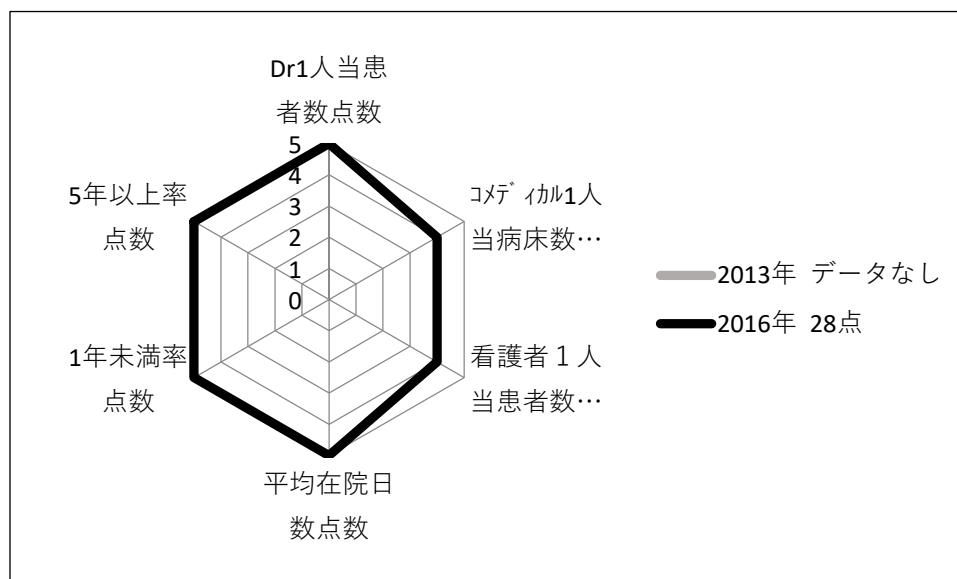
総合点 28 点

2007 年開設の病院。前回 2013 年以降の変化としては、2014 年に措置指定病院となり、精神科救急病棟を設けたこと、これまで 0 だった PSW が 2016 年には 2 名配置されていることである。

平均在院日数 34 日は、変わらず都内単科精神科病院で最も短い(都平均 217 日)。入院者の 98%が在院 1 年未満である。前年 6 月入院者 94 人の転帰を見ると、転院は 9 人で 10%(同 14%)、2016 年 6 月 1 ヶ月間退院者 78 人の転帰では、転院 5 人で 6%(同平均 15%)で、多くは家庭・社会復帰施設へ退院している。ホームページでも「長期入院・療養目的は当病院での入院が困難」と謳っている、短期入院型の病院である。

病名では、統合失調症 44%(同 64%)、気分障害 33%(同 11%)、認知症を含む脳器質性 10%(同 14%)。年齢構成も、40 歳未満が 28%(同 10%)、65 歳以上が 23%(同 51%)と依然若い。任意入院 34%、医療保護入院 65%、前回は 50%ずつであったので、医療保護入院が大きく増えた。全閉鎖なので任意入院閉鎖処遇率が 100%であることは変わらない。身体拘束率も前回 11%(2013 年都平均 5%)、今回は 17 人、18%(同 4%)とさらに増えている。

保護室 17 室の他に、施設できる個室 22 室もありながら、なぜこんなに多数の人を拘束しなければならないのだろうか。ホームページによれば修正型電気ショック療法を年間 2,000 件実施。入院のみならず外来でも行っている。



烏山病院

学校法人・昭和大学付属

措置・応急入院指定

世田谷区北烏山 6-11-11

TEL 03-3300-5231

精神科病床:6 病棟 296 (総病床 340)

専門病床:精神科救急 94

開放病床 34 閉鎖病棟 262 保護室 21 施設できる個室 59

デイケア実施

総合点 27 点

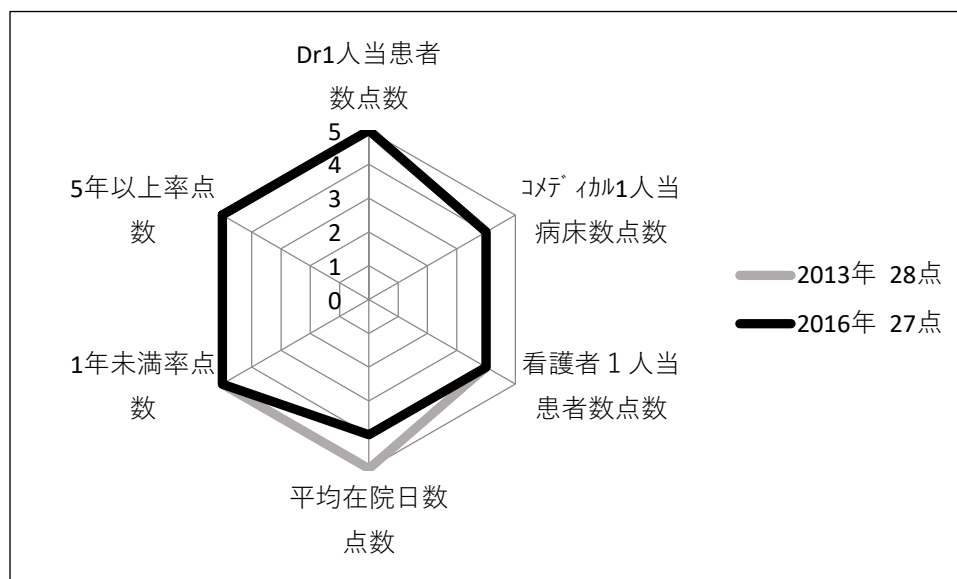
2013 年 277 床だった病床数が 2016 年には 296 床に微増。内訳は専門病床の精神科救急が 78 床から 94 床に、開放病床数が 31 から 34 床に少し増えた。ホームページによると、2016 年中に精神科急性期治療病棟を届け出、認可を受けてはいないが老人性認知症専門病棟も設けている。発達障害医療研究所を併設し、発達障害専門外来、デイケアなど発達障害の臨床、研究にも力を入れている。

大学付属病院でありマンパワーは充実しているが、2013 年と比べ常勤医が 5 人増えて 26 人、1 人当たり患者数は 10 人(都平均 27 人)になった。平均在院日数は、2013 年の 106 日から 131 日(同 217 日)に、1 年未満在院者率が 86%から 78%に減り、約半数を占める統合失調症入院者の平均在院日数も 2013 年に 139 日だったのが 190 日(同 312 日)になっている。

2013 年には医療保護入院率が 74%と松沢病院に次いで高率だったが、2016 年には 54%(同 43%)、任意入院 40%(56%)と他の指定病院並みになった。任意入院閉鎖処遇率は 77%(同 65%)である。隔離患者率は 6%から 8.3%(同 3.3%)とさらに高くなっている。

精神科病院入院者の高齢化が進む中、65 歳以上率が 40%から 2016 年には 26%(同 51%)に下がり、10~20 歳代の若年層が 20%(同 4%)と多いのも特徴である。疾病別でも F8 心理的発達の障害が年間 45 名、F9 小児期・青年期に発症する行動及び情緒の障害が年間 25 名入退院しているのが目につく。

京王線千歳烏山駅から徒歩 10 分。



東京都立松沢病院

世田谷区上北沢 2-1-1

東京都立

TEL 03-3303-7211

措置受入・応急入院指定

精神科病床:21 病棟 808

専門病床:精神科救急 82 急性期治療 34 アルコール/薬物治療 34

合併症 131 医療観察法 34

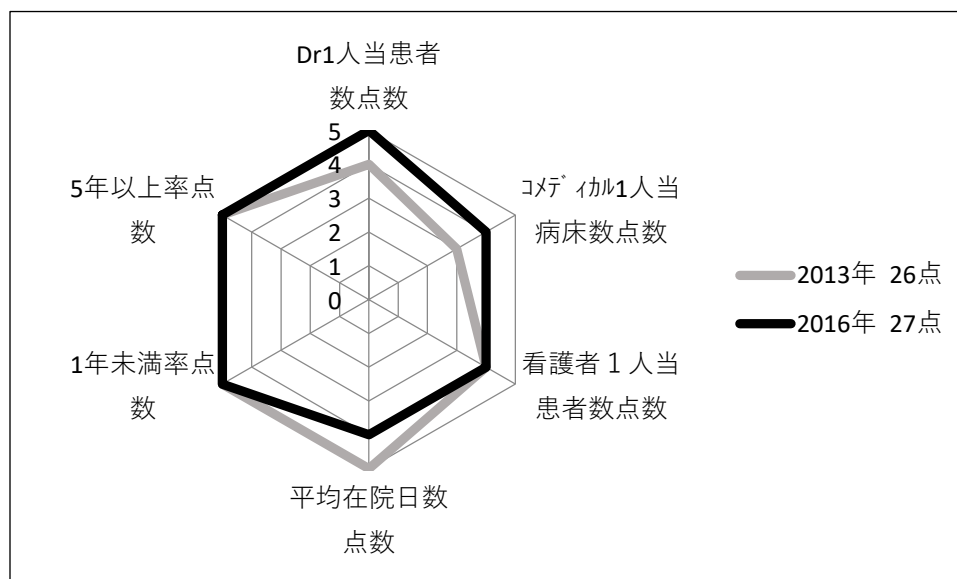
開放病床 46 閉鎖病床 762 保護室 95

デイケア実施

総合点 27 点

総合点は 27 点。常勤医師数が 2013 年の 30 人から 57 人に、非常勤も 24 人から 67 人と大幅に増えている。その結果、医師 1 人当たりの患者数は 25 人から 12 人(都平均 27 人)へと改善され、成仁病院の 7 人、国立精神神経センターの 8 人、烏山病院の 10 人に次いで 4 位となっている。上位の病院はいずれも松沢より 300 床以上少ない。点数も 4 から 5 に上がった。作業療法士は 18 →19 人で、PSW は 20 人と変化なし。心理は 8 →11 人でコメディカル 1 人当たり患者数は 16 →14 人と減り、点数は 4 にアップ。特筆すべきは看護者で常勤で 471 →509 人と 38 人増え、1 人当たりの患者数で成仁病院の 1.1 に次いで 1.3 となった。1.3 は総合病院並みの数字である。

病床の開放・閉鎖については 2013 年と全く同じであるが、専門病床の構成についてはこの 3 年間で変化がある。まず 2013 年ではそれぞれ 36 床、30 床あった「認知症」、「その他」病床をゼロにした。一方、「一般精神」と「精神科救急」をそれぞれ 72 床、20 床増やした。また「急性期治療」「アルコール/薬物治療」「医療観察法」はすべて 34 床にした。そのため「アルコール/薬物」は 14 床、「急性期治療」は 6 床減少した。「医療観察法」は変化なしである。公立病院ゆえか任意入院が 13%(同 56%)と少なく、医療保護入院が 78%(同 43%)と多い。患者本人の意思による入院が少ないにもかかわらず身体拘束率が 0.4%(同 4%)とかなり低いのは評価すべきであろう。医師や看護の数が充足しているからだろうか。



入院患者の年齢を見ると「65才以上率」が29%(同51%)と低い。一方「前年6月1か月間の退院者の転帰」を見ると「転院率」が25%(同15%)とかなり高い。合計点26点以上の「成績の良い」他の病院には転院率が20%を超える病院は無い。2013～2016年の間に認知症病棟を閉鎖したことが、高齢患者が少なく、転院率が高いことと関係しているのかもしれない。

入院期間1年未満率が74%(同44%)、5年以上率9%(同29%)で都平均よりはかなり良いが、平均在院日数は130日(同217日)で100日を超えている。2桁の数字を出してきている病院(5病院)もある中で、公立病院としては胸を張れる数字ではない。

比較的財政が豊かな東京都の病院として精神科病院のあるべき姿の実現を目指してほしい。

成増厚生病院

医療法人
板橋区三園 1-19-1

措置・応急入院指定

TEL 03-3939-1191

精神科病床:9 病棟 482 (総病床 530)

専門病床:精神科救急 100 急性期治療 96

開放病床 142 閉鎖病床 340 保護室 20 施錠できる個室 72

デイケア・ショートケア実施

総合点 27 点

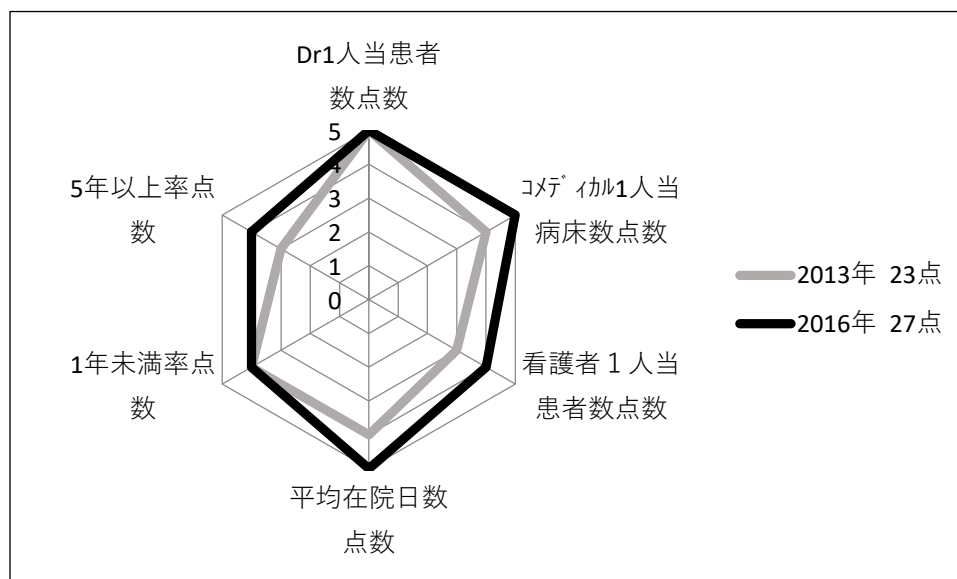
都営三田線・西高島平駅から徒歩 7 分。

2013 年より開放病床を 10 床減らしているが、目立つのは保護室が 3 から 20 室へ、施錠できる個室が 3 から 72 室と増えている。平均在院日数は 2008 年 270 日、2013 年 160 日から更に短縮し 117 日(都平均 217 日)となった。1 年未満率も 47%から 57%(同 44%)とさらに上がっている。5 年以上率も 32%から 26%(同 29%)となり点数を上げている。2013 年に 57 人いた 20 年以上入院者が 47 人、11%(同 7%)となっているがこの 10 人は結局病院内で亡くなっていったのか? 病院住所の入院者も 54 人、13%(同 6%)で相変わらず多い。

マンパワーでは、医師 1 人当たり患者数 15 人(同 27 人)、コメディカル 1 人当たり患者数 10 人(同 15 人)、看護師 1 人当たり患者数 1.8 人(同 2.2 人)といずれも都平均よりも充実している。

在院者の内訳は、アルコール・薬物等の入院者が 14%(同 5%)と多く、統合失調症が 57%(同 64%)でその平均在院日数は、194 日(同 312 日)と 2013 年よりも更に 66 日短くなった。

ホームページによると、非常に多角的な事業を展開している。



東京足立病院

医療法人財団

措置・応急入院指定

足立区保木間 5-23-20

TEL 03-3883-6331

精神科病床:7 病棟 377 (総病床 437)

専門病床:精神科救急 48 急性期治療 56 精神療養 163

老人精神 60 アルコール 50

開放病床 0 閉鎖病床 377 保護室 20

デイケア実施

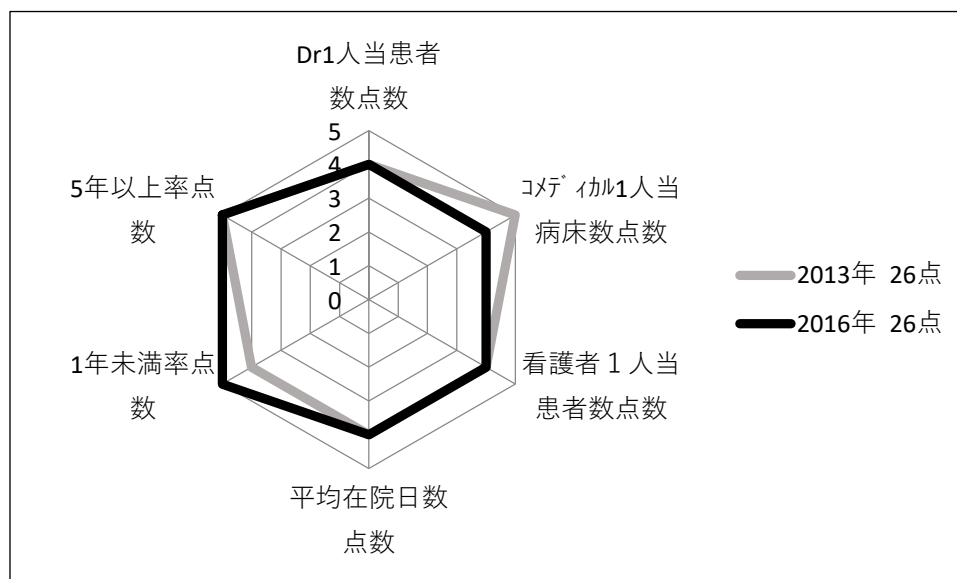
総合点 26 点

2016 年には 2013 年に無かった急性期治療病棟が 56 床あるが、2013 年に 60 床あった一般精神病床がゼロになっている(2019 年現在のホームページを見ると精神療養が 103 床で 60 床は改装工事中である)。

総合点 26 点と常勤医師数 17 人は 2013 年と同じ。作業療法士が 19→14 人と 5 人減っている。一方看護者については正看が 103→119 人と 16 人増え、看護者全体でも 184→203 人と 19 人増えている。その結果、看護者一人当たりの患者数で 1.7 人(都平均 2.2 人)と都内第 7-11 位(同点が 5 病院)に入った。

際立っているのは身体拘束率が 16%(都平均 4%)とワースト 1 であること。2013 年も 11%(同 5%)と都平均よりかなり高かったが、3 年たって都平均は 4%とわずか 1 ポイントだが減少しているのに、この病院は 5 ポイントも悪化している。看護者一人当たりの患者数では都平均を上回る成績をあげているのだから、拘束に依存しない、人権を尊重した安全確保ができないものだろうか？

東武スカイツリーライン『竹ノ塚』駅とつくばエクスプレス線『六町』駅からそれぞれバスで 10 分程度と市街地にあるせいか、年間外来延べ数(82920 人)は井之頭病院、東京武蔵野病院に次いで第 3 位、6 月 1 ヶ月のデイケア利用者延べ数も井之頭病院に次いで第 2 位である。訪問看護の 6 月 1 か月延べ数は都内トップであるが、病院そのものが訪問看護サービスを提供するより、地域に根差した訪問看護ステーションが脱病院的思考にたって、入院を減らす方向で活躍する方がより望ましいのではないか、と思われる。



ホームページを見ると「入院をお考えの方はソーシャルワーカーがご相談に応じます」とあり PSW の集合写真と共に電話番号が書かれている。アプローチに好感は持てるが 2016 年の平均在院日数は 151 日とほぼ 5 カ月である。「短期間で退院できますか?」「拘束はされないんですよね」といった質問や相談にどう答えるのか、ぜひ知りたい。

東京武蔵野病院

板橋区小茂根 4-11-11

財団法人

措置・応急入院指定

TEL 03-5986-3111

精神科病床:11 病棟 634 (総病床:683)

専門病床:精神科救急 87 急性期治療 120 老人精神 117

開放病床 60 閉鎖病床 574 保護室 38 施錠できる個室 52

デイケア実施

総合点 25 点

東京メトロ有楽町線、副都心線、西武有楽町線の小竹向原駅から徒歩 5 分と交通至便。

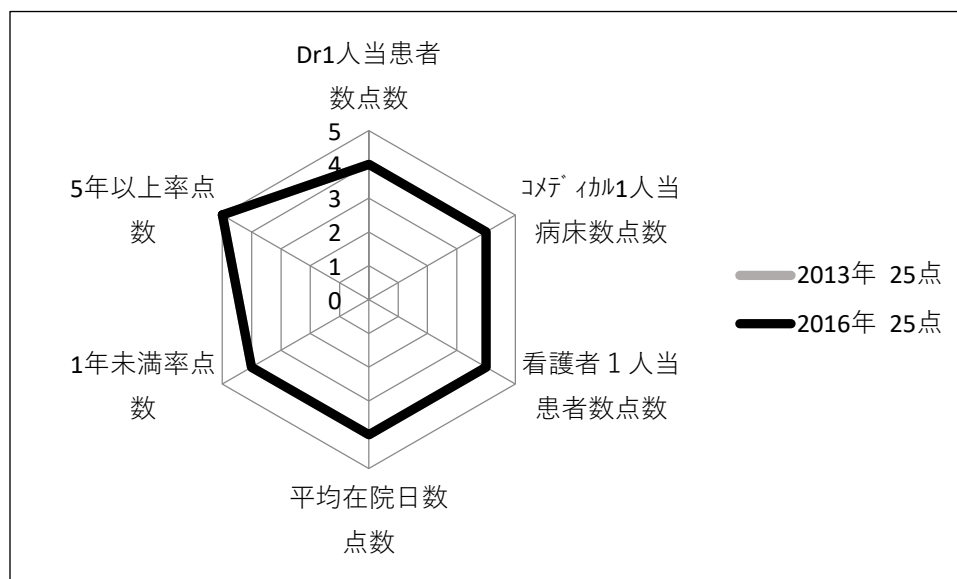
2013 年と比較すると、老人精神病床が 3 床減り 117 床。総病床も 3 床減って 683 床となっている。保護室が 3 床減り 38 床、施錠できる個室が 8 床増えて 52 床となっている。

常勤医師数 28→33 人、一人当たり患者数 18 人(都平均 27 人)、コメディカル 48→48 人、一人当たり患者数 12 人(同 15 人)、看護者数 316→341 人、一人当たり患者数 1.7 人(同 2.2 人)、正看護師 226→263 人と常勤医師、常勤看護者、特に常勤正看護師が大きく増えている。年間外来数が 107,247→92,115 人に減っているが、都内で 3 番目に多い。

5 年以上入院者数は、108 人 18.6%→115 人 20%(都平均 22.8%)、20 年以上入院者は、26 人 4.9%→26 人 4.5%(同 7.1%)、平均在院日数は、134 日→140 日(同 217 日)と若干数字を落としているものの都平均よりもよい。

6 月 1 ヶ月の退院者は、死亡退院 18 人 1.1%→13 人 0.9%(同 3%)、転院患者数 12 人 9%→13 人 9%(同 15%)、隔離患者数 39 人 7%→43 人 7%(同 3%)は、ほぼ変わらず。拘束患者数 40 人 7%→22 人 4%(同 4%)は、大きく減らしている。

ホームページによると、2016 年以降に、総病床数 619 床、精神科病床数 570 床と精神科病床を 64 床減らしている。



大内病院

医療法人

措置入院指定

足立区西新井 5-41-1

TEL 03-3890-1306

精神科病床:7 病棟 362

専門病床:急性期治療 42 精神療養 60

開放病床 64 閉鎖病床 298 保護室 10

デイケア・デイナイトケア実施

総合点 24 点

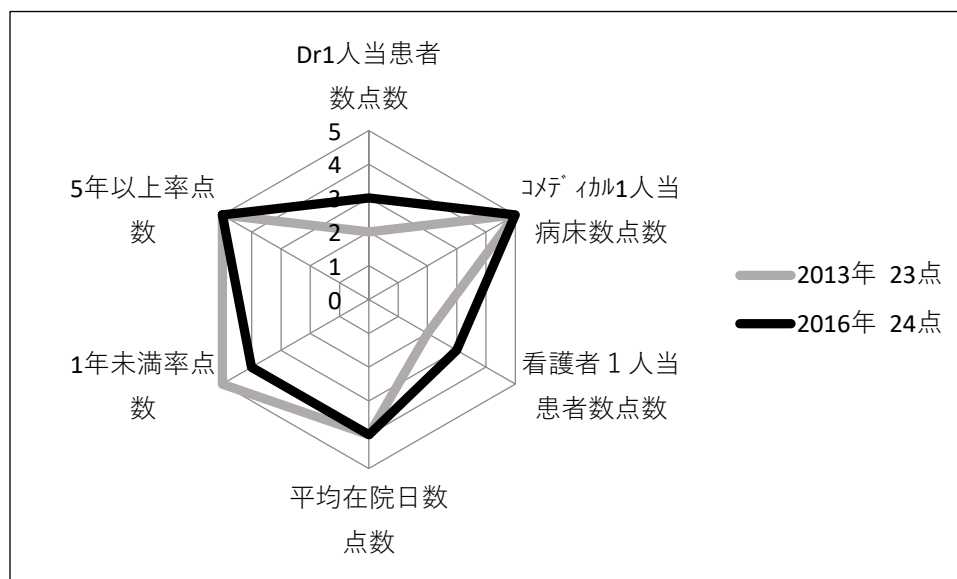
2013 年と比較すると病床数が 414 から 362 と 52 床減った。しかし専門病床数には変化が無いので、一般精神の病床を減らして専門病床を残したと考えられる。クリニック等他の選択肢も多い 23 区内の市街地の病院としては病床削減は望ましい変化である。

スタッフは 2013 年医師 1 人当たりの患者数が 42 人で 2 点だったのに対し、16 年は 34 人で 3 点である。しかし都平均は 27 人なのでまだまだ平均にも届いていない。コメディカルは 45 人で 1 人当たり 8 人で 5 点、13 年とほぼ同じレベルである。コメディカルが充実していることは大都市にある様々な資源を活かす上で適しているといえる。看護は 1 人当たり 2.5 人(都平均 2.2 人)と都平均を下回っている。

入院期間を見ると 1 年未満率が 2013 年には 62%だったのに 54%と減り 2008 年の 51%の水準に戻っている。5 年以上率は 14%(2013 年 15%)と 5 点を維持している。平均在院日数は 213 日と都平均(217 日)並み。年齢を見ると 2013 年は 65 才以上率が 54%で都平均 47%より多いが、2016 年も 55%とほとんど変化が無く、都平均の方が 51%と近づいてきている。

疾病別では脳器質性障害が 33%(都平均 14%)と 3 分の 1 を占めている。病院が力を入れている入院以外のサービスも通所、訪問とこの層を意識しているようである。それでも最も多いのは統合失調症の 56%である。

ホームページを見ると、足立区で 2 番目に古い病院であることを強調し、地域連携室を設けているという。訪問看護の 6 月 1 か月の延べ数は 393 でベスト 5 に入る。ちなみに 1 位は東京足立病院の 798 である。



慈雲堂病院

医療法人社団

措置・応急入院指定

練馬区関町南 4-14-53

TEL 03-3928-6511

精神科病床:9 病棟 513 (総病床 543)

専門病床:急性期治療 48 認知症 50 精神療養 55

開放病床 55 閉鎖病床 458 保護室 6

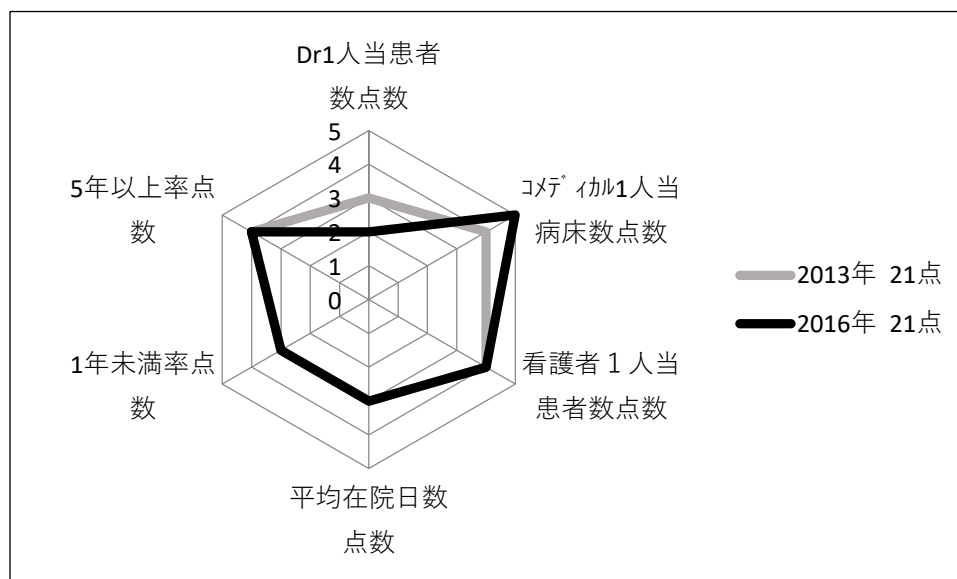
デイケア、デイナイトケア実施

総合点 21 点

2014 年 4 月「慈雲堂内科病院」から改称。JR 中央線三鷹駅からバス 10 分、西武新宿線武蔵関駅から徒歩 15 分に位置する。2013 年時より病床を 60 床減らした。開放病床を 161 床から 55 床に減らし開放率は 28%から 11%になった。保護室は 16 床から 6 床に減らした。

2013 年からのマンパワーに大きな変化がある。医師数は常勤 17 人非常勤 13 人から常勤 9 人非常勤 32 人と常勤医師を大幅に減らし非常勤医師に依存する態勢となった。常勤医師 1 人当たり患者数は 51 人で都平均 27 人に遠く及ばない。コメディカルは OT が 5 人増の 26 人、PSW が 3 人増の 18 人、心理も 2 人増の 4 人となった。常勤コメディカル 1 人当たり患者数は 9.6 人で都平均 15 人を上回った。看護者は 301 人から 252 人に減ったが、それでも 1 人当たり患者数は 1.8 人と都平均 2.2 人より充足している。

平均在院日数は 2013 年の 299 日から 248 日に短縮したが、それでも都平均 217 日には及ばない。5 年以上率は 29%から 25%(都平均 28%)となり、99 人いた 10 年以上入院者は 3 年間で 60 人に減った。なお、前年 6 月入院者の転帰では転院が 49%(同 14%)と高く、転院先が気になる。病名別構成では、脳器質性疾患が 26%(同 14%)と多く、統合失調症は 58%(同 64%)と少なめであり、気分障害が 11%と都平均並みである。65 歳以上率は 66%(同 51%)と高く、そのせいか死亡退院が 5.8%(同 3.3%)と多い。



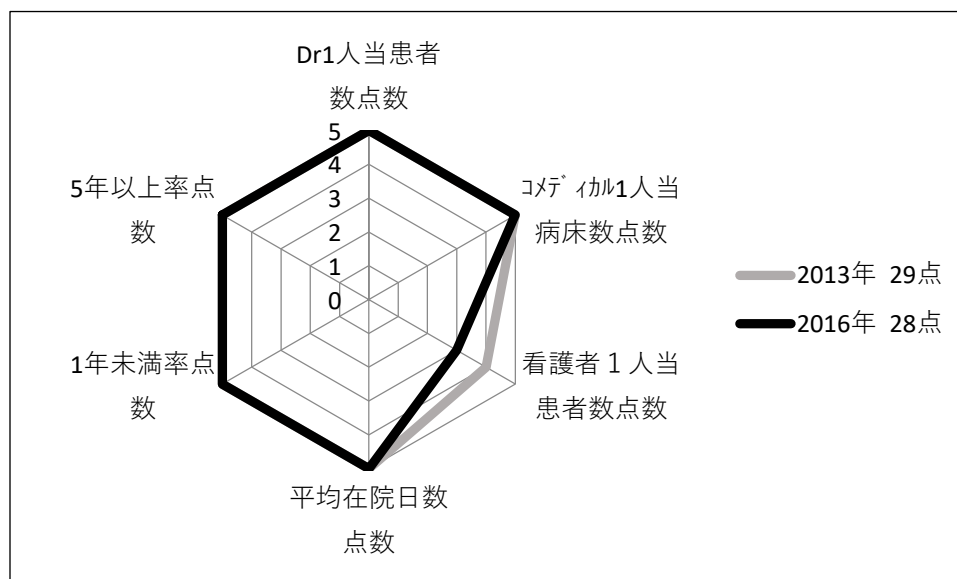
精神科病床:6 病棟 208 (総病床 474)
専門病床:医療観察法 68
開放病床 35 閉鎖病床 173 保護室 18 施設できる個室 122
デイケア実施
総合点 28 点

病床数、保護室、個室の数は 2013 年と変わらないが、開放病床が 70 床から 35 床に減った。任意入院者は 51 人(29%)から 67 人(36%)に増えているので、任意入院で閉鎖処遇されている人は 2013 年の 14 人(27%)から 38 人(57%)へと大幅に増えた。

マンパワーについて 2013 年には、人員配置基準の高い医療観察法病棟を 2 単位もつだけあって、いずれの職種も都内ベストの充足率と評した。2016 年には医師は 1 人減って 24 人になったものの 1 人当たり患者数 8 人(都平均 27 人)、コメディカルは OT が 19 人から 24 人、PSW が 10 人から 14 人に増え、総数 47 人、1 人当たり患者数 4 人(同 15 人)と充実しているが、看護師が 2013 年に 165 人だった正看護師を 79 人に減らし、総数 80 人、1 人当たり患者数 2.3 人と、都平均(2.2 人)より劣った数値になってしまった。

平均在院日数は、2013 年に 51 日だったのが 57 日(都平均 217 日)と、この 3 年でさして変わらない。3 ヶ月未満入院率は 64%から 68%(同 25%)に増えている。1 年以上入院者は 34 人、18%だが、この 34 人の内訳をみると、在院 20 年以上の医療保護入院者 1 人を除き、1 年以上 5 年未満の 30 人、5 年以上 10 年未満の 3 人の計 33 人が医療観察法による入院者であり、58 人(男性 46 人、女性 12 人)の医療観察法入院者の半数以上が長期入院化していることがわかる。

入院形態は、前記の任意入院 67 人(36%)、医療観察法による入院 58 人(31%)のほか、医療保護入院 56 人(30%)、措置入院 5 人である。2013 年と 2016 年を比べると、隔離は 6 件→22 件、12%(都平均 3%)、身体拘束は 6 件→14 件、8%(同 4%)、いずれも増加傾向にある。



病名では、2013 年に 52～53%であった統合失調症の割合が、2016 年には 46%に下がり、その平均在院日数は 100 日から 84 日(同 313 日)に短期化している。多岐にわたる病名の中で、てんかんが 6 月 30 日現在では 12 人(7%)だが、年間に約 200 人が入退院しているのが目を引く(平均在院日数 22 日)。施設内にてんかんセンターをもち検査入院等のためかもしれない。

外来はデイケアも行い、年間延べ約 60,000 人。ホームページによれば、リワークデイケアや個別、集団認知行動療法も実施している。

多摩あおば病院

東村山市青葉町 2-27-1

医療法人

措置・応急入院指定

TEL 042-393-2881

精神科病床:4 病棟 206

専門病床:急性期治療 49 精神療養 49 精神科救急 52

開放病床 0 閉鎖病床 206 保護室 14

デイケア・ナイトケア・デイナイトケア実施

総合点 28 点

2013 年からの変化は、精神療養病床数が 57 床から 49 床に減り、精神科救急病床数が 44 から 52 に増えたことである。しかし、隔離患者率は 7%から 6%、拘束率は 10%から 8%と減少している。

急性期に重きをおいた結果、平均在院日数は 94→73 日、1 年未満入院者率 71→78%と、ますます入院の短期化が進んだ。

2013 年から、コメディカル 24→28 人、正看護師 71→86 人、看護全体では 104→114 人と増やし、さらに充実している。

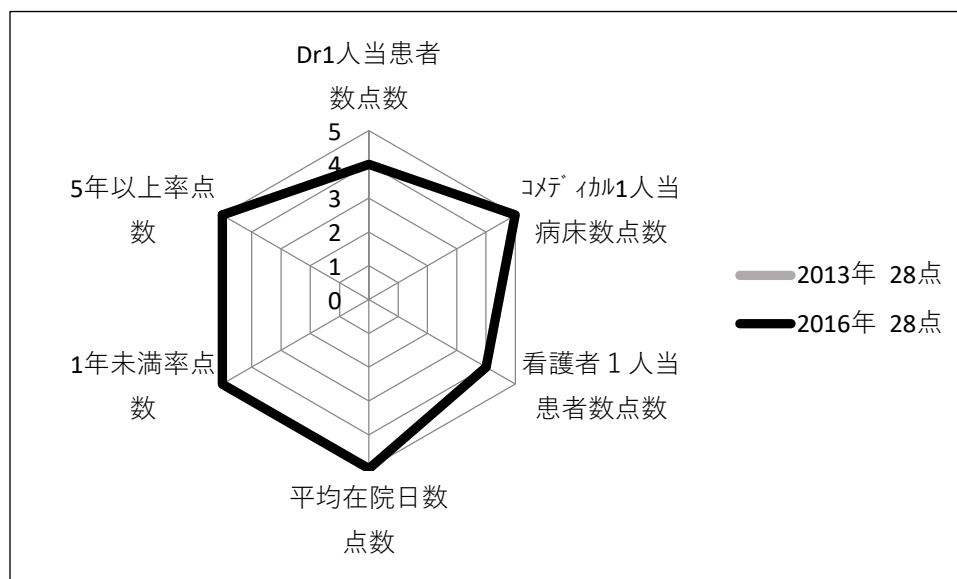
入院者の疾病分類比率は、統合失調症 54%、気分障害 14%、脳器質性 13%と大きくは変わらない。

入院形態別では、医療保護入院が 42→46%に増え、任意入院が 53→51%に減っている。全閉鎖であるため任意閉鎖率は当然ながら 100%である。

年齢別では、65 歳以上率が 41%から 34%に減った。

病院所在地の東村山市と周辺の東大和・小平・清瀬・東久留米市で入院者の 57%を占め、地域性のある病院である。

西武池袋線清瀬駅、同新宿線久米川駅、JR 武蔵野線新秋津駅からバス利用と、交通の便はそれほどよくないが、外来数は年間延べ 68,912 人と 2008 年より約 14,300 人増え、デイケア・ナイトケアを含め活発である。



吉祥寺病院

医療法人

措置・応急入院指定

調布市深大寺北町 4-17-1

TEL 042-482-9151

精神科病床:6 病棟 345

専門病床:急性期治療 53

開放病床 60 閉鎖病床 285 保護室 21 施設できる個室 0

デイケア・ナイトケア実施

総合点数 26 点

総合点が前回の 22 点から 3 点上がった。

常勤医師数は 15 人で一人当たりの患者数は 21 人(都平均 27 人)。看護師は 171 人、一人当りは 1.9 人(同 2.2 人)。また、5 人だった PSW が 11 人へと倍増した。

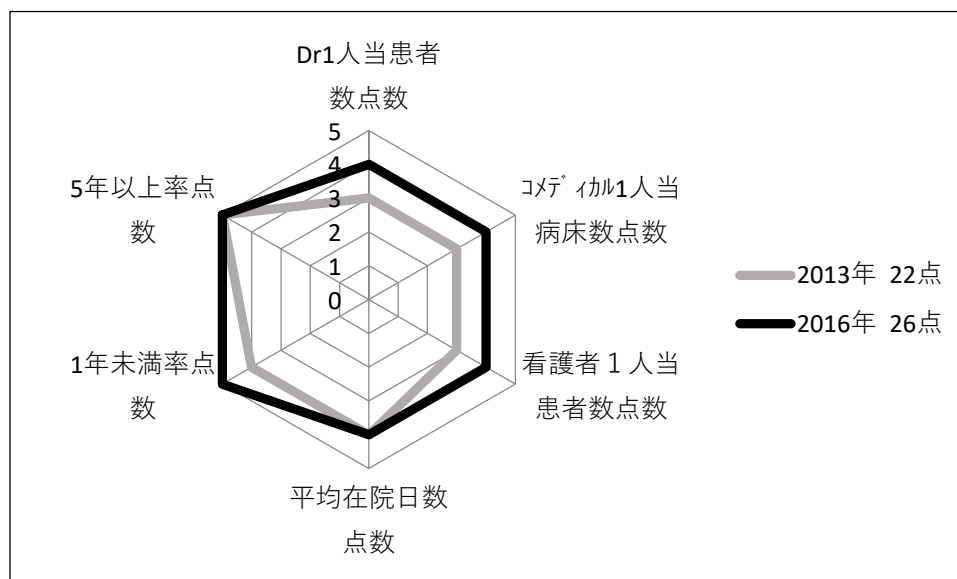
統合失調症の任意入院率は 54%と前回と変化なし、任意閉鎖率も前回の 67%(同 65%)と同じだった。また、隔離患者数は 5%(18 名)と都平均の 3.3%を上回っている。一方、拘束は 2%(9 名)で都平均の 4%よりは低い。

平均在院日数は 137 日(都平均 217 日)と前回の 166 日から 29 日、短くなった。入院期間では、5 年以上が 13.4%(同 29%)、一方、1 か月未満 17%(同 12%)、3 か月未満 38%(25%)。1 年未満は 61%(同 44%)。

ホームページで統合失調症の吉祥寺病院と謳っているだけに、統合失調症率は 81%と大半を占める。

2017 年 4 月に精神科救急病棟(スーパー救急病棟)を開始している。

中央線吉祥寺駅、同三鷹駅、京王線調布駅からバス 15 分。



長谷川病院

三鷹市大沢 2-20-36

医療法人

措置・応急入院指定

TEL 0422-31-8600

精神科病床:10 病棟 461 (総病床:500)

専門病床:精神科救急 127 急性期治療 46 認知症 50

開放病床 63 閉鎖病床 398 保護室 16 施錠できる個室 110

デイケア実施

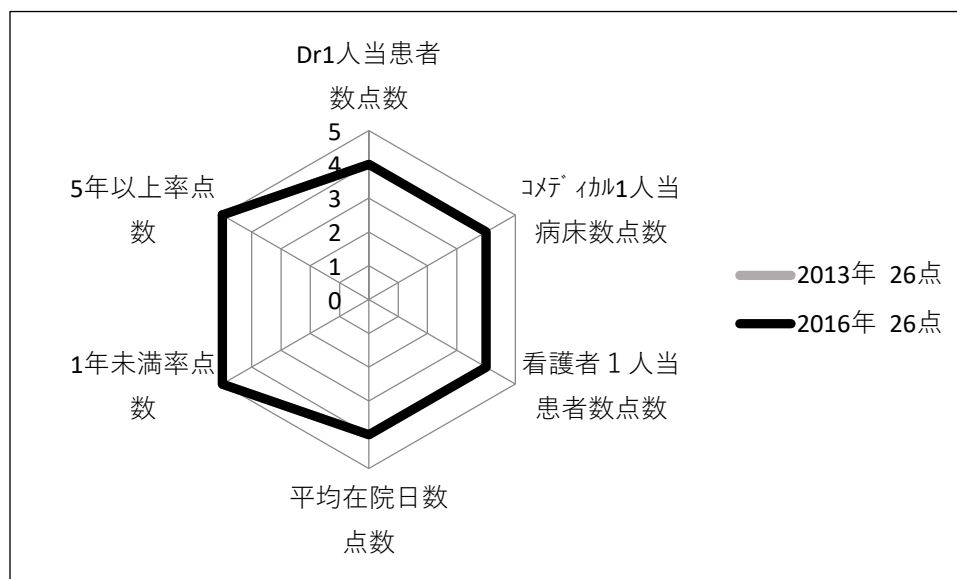
総合点 26 点

JR 武蔵境駅と京王線調布駅から送迎バスあり。路線バスだとバス停から徒歩 8 分、あまり交通の便はよくないが市街地にある。

精神科救急病床が 82 床から 127 床と増えており、総病床数は変わらないが病棟が 9 棟から 10 棟に増えている。その影響か開放病床が 2 床減り、閉鎖病床が 2 床増えている。保護室が 10 から 16 に、施錠できる個室が 103 から 110 に増えている。

2013 年と 2016 年を比較すると、常勤医師 17 人→18 人、コメディカル 34 人→34 人とあまり変わらないが、看護師は、259 人→296 人と大きく増えていて、正看護師が 43 人増えている。看護師一人当たり患者数は 1.7 人→1.5 人(都平均 2.2 人)となっている。5 年以上入院者数は、42 人 9.4%→38 人 8.5%(同 28.8%)、平均在院日数、142 日→154 日(同 217 日)と都平均より短い。6 月退院者の転院は、90 人中 14 人で 15.5%、都平均(15%)並みである。死亡退院者数 11 人 1%→4 人 0.4%(同 3%)、隔離患者数 24 人 6%→12 人 3%(同 3%)、身体拘束数 16 人 4%→6 人 1%(同 4%)と減らしている。

ホームページによると、翌 2017 年に精神科病床が 3 病棟 90 床増えて 551 床となっている。精神科病床の多さが国際的に批判されている中、病床を増やした。それを認めた東京都にも疑問が残る。2012 年に、医療・福祉・ホテル・教育・保育と手広く全国展開している『「葵会グループ」』として運営がスタート』と書かれている。



駒木野病院

医療法人

措置・応急入院指定

八王子市裏高尾町 273

TEL 042-663-2222

精神科病床:10 病棟 482 (総病床 482)

専門病床:精神科救急 91 老人精神 50 精神療養 52 児童思春期 33

開放病床 57 閉鎖病床 425 保護室 16 施錠できる個室 139

デイケア実施

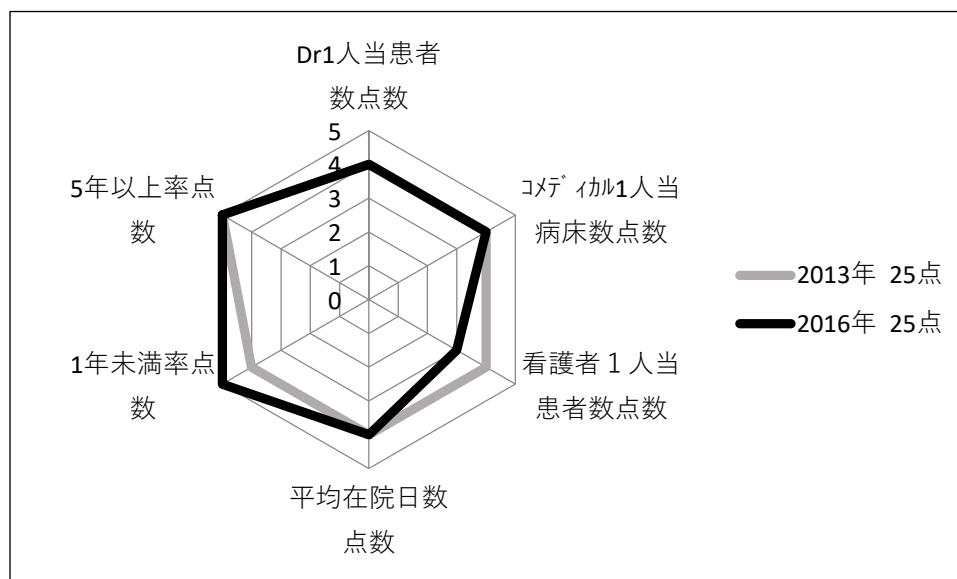
総合点 25 点

総病床数は変わっていないが 2016 年は病棟が 2013 年に比べ 1 棟増え、2013 年には精神科救急(43 床)と急性期治療(48 床)に分かれていたが、2016 年には精神科救急(91 床)に一本化している。この病棟数の変化は建設中だったためのもので、2020 年のホームページによると精神科救急は二つの病棟に分かれ全個室となり、急性期は新築の建物の最上階に入った。

常勤医師数は 2013 年の 19 人から 25 人に増え、一人当たりの患者数も 23 人から 17 人と減った。コメディカルも 31 人から 34 人に増えた。この二つの項目は 4 点と 3 年前と変わっていない。しかし看護者は 245 人から 192 人と 53 人、20%以上減り、点数も 4 点から 3 点へと落ちている。

総合点は 2013、2016 年共に 25 点なので、どの項目で挽回しているのかというと入院期間の長短を示す指標の 1 年未満率である。2013 年は 57%で 4 点だったが、2016 年は 63%で 5 点に上がっている。都平均はそれぞれ 41%と 44%である。5 年以上率は 2013 年の時点ですでに 15% (都平均 31%)で 5 点だったが、2016 年も 14%(同 29%)で 5 点である。ただ平均在院日数は 140 日で都平均の 217 日より大分短い 4 点である。

この病院は、他の国から日本の精神医療の問題点とされている医療保護入院が占める率が 74% (都平均 43%)と顕著に高い。この病院より率が高いのは都立松沢病院の 78%のみである。従って任意入院者の比率は 25%と低く、この数字を下回るのは同じく都立松沢病院の 13%のみである。



また施設できる個室の数は139室で、総病床数に対する比率は29%になり、都立松沢病院の25%を上回る。ちなみに身体拘束率は12%で都平均の4%に比べれば高いが、近い数字に点数が高い病院も低い病院もあり判断が難しい。疾病別入院者数は都平均と比べて統合失調症が52%（都平均64%）とやや少ない以外は、顕著な特徴は無い。

2014年には訪問看護ステーション「天馬」が、上記の統計の翌年の2017年にはグループホーム駒里を開設した。

よしの病院

町田市図師町 2252

医療法人

措置・応急入院指定

TEL 042-791-0734

精神科病床:3 病棟 166

専門病床:精神療養 116 アルコール 50

開放病床 0 閉鎖病床 116 保護室 11 施設できる個室 0

デイケア・ナイトケア・デイナイトケア実施

総合点 25 点

2014 年に措置指定病院となり、2016 年 6 月末現在 3 人の措置入院者がいる。医療保護入院 33%と任意入院 65%は 2013 年と大差ない。

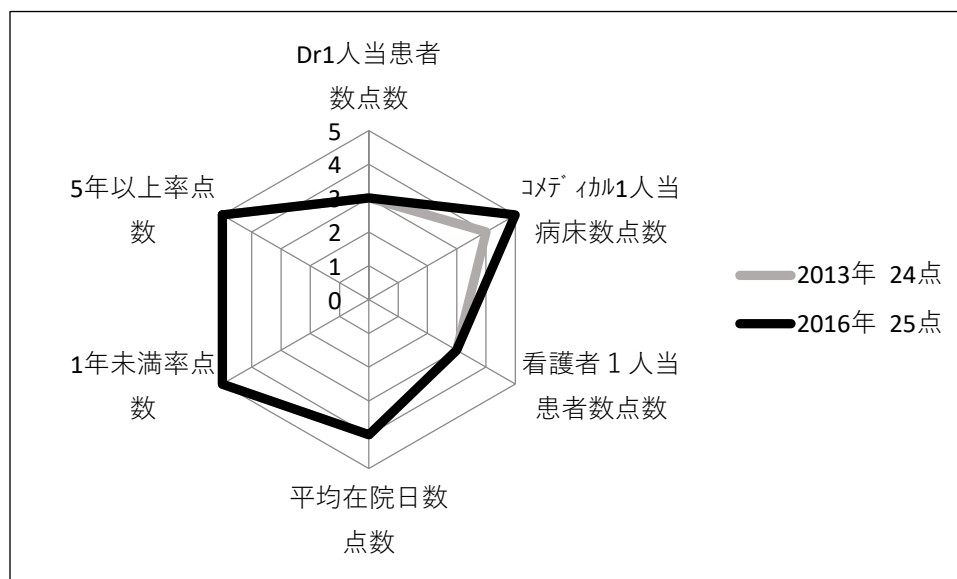
マンパワーでは、常勤医は変わらず 5 人、1 人当たり患者数 27 人(都平均 27 人)。看護は、1 人当たり患者数は 2.3 人(同 2.2 人)で 2013 年と変わらないが、有資格者が 9 人、総数では 70 人から 60 人に大きく減っている。コメディカルは心理が 1 人入って、PSW が 2 人減り、総数では 14 人から 13 人になっているが、1 人当たり患者数 10.4 人(同 15 人)と、比較的充足されている。

活動性を見ると、平均在院日数が 171 日から 166 日(同 217 日)、1 年未満入院者率は 65%から 61%(同 44%)、5 年以上入院者率は 13%から 11%(都平均 29%)と、2013 年よりやや短期化している。630 調査への回答では全閉鎖であるが、ホームページによるとアルコール病棟の一部を急性期病棟として運用しており、アルコール病棟部分は準開放病棟とのこと。

隔離、身体拘束は、2016 年も前回同様いずれも 0 で、指定病院になった後も隔離・拘束を多用する病院ではない。病名別では、アルコール性精神障害が 16%、統合失調症が 59%、気分障害が 18%。統合失調症の平均在院日数は 277 日と都平均(313 日)より短い。脳器質性の高齢者がほとんどいないので 65 歳以上率は 32%(同 51%)とそれほど高くない。都内からの入院者 65 人に対し、都外 69 人と、都外からの入院者の方が多いのは神奈川県境に近いからであろう。

小田急・JR 町田駅または小田急・京王多摩センター駅から、本数の多くないバス利用と交通の便は悪いが、デイケア・ナイトケアを含め年間外来延べ数が約 23,600 と、外来も活発である。

病院敷地に隣接して、20 人定員の宿泊型自立訓練施設を併設。



井之頭病院

医療法人

措置・応急入院指定

三鷹市上連雀 4-14-1

TEL 0422-44-5331

精神科病床:12 病棟 640

専門病床:急性期治療 78 精神療養 180 アルコール/薬物治療 170

開放病床 50 閉鎖病床 590 保護室 32

デイケア実施

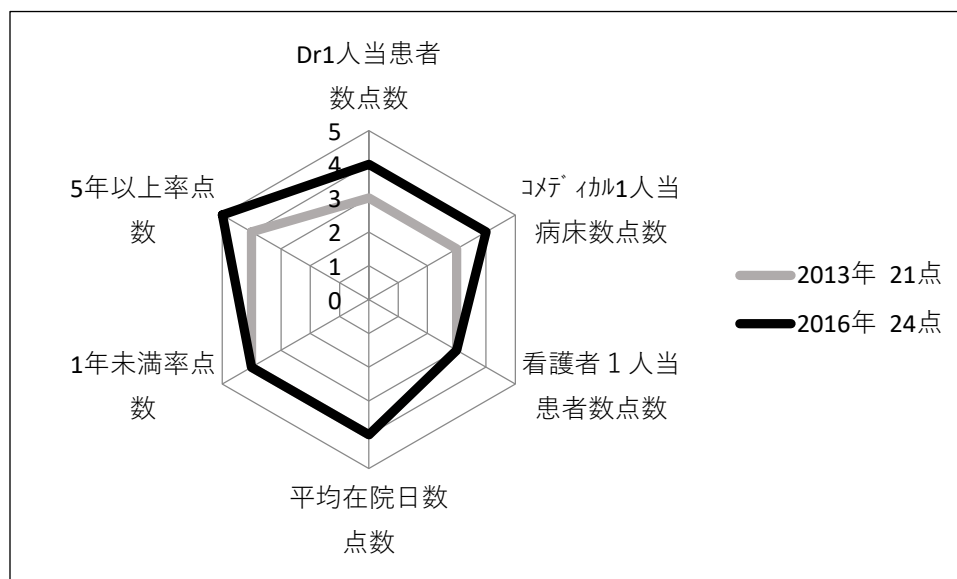
総合点 24 点

中央線三鷹駅から徒歩 15 分の街中にある。民間病院では最も規模の大きい病院の一つ。2013 年時から病床を 19 床減らした。2008 年に 46%だった閉鎖率が 2013 年には 73%となり 2016 年には 92%となった。任意入院率は 91%(都平均 56%)と高いが、任意入院閉鎖処遇率は 2013 年の 69%から 91%(同 65%)に増えた。

疾病別構成をみると、統合失調症は 2013 年の 65%から 58%に減り、(アルコール等)精神作用物質使用による障害が 19%から 27%に増えた。その合計は約 85%で変わっていない。平均在院日数は 210 日(同 217 日)、1 年未満率は 54%(同 44%)、5 年以上率は 20%(同 28.8%)と活動性を維持している。65 歳以上率は 42%(同 51%)と少なめである。外来は 1 カ月 1 床当たり 13 人(同 6.5 人)と多く、デイケアや訪問看護も活発である。

マンパワーはこの間増えている。常勤医師は 2013 年から 9 人増えて 31 人になり、一人当たり患者数は 21 人(同 27 人)となった。常勤PSWは 3 人、臨床心理士も 2 人それぞれ増えてコメディカル一人当たり患者数は 14 人(同 15.0 人)となった。また、常勤看護師も 2013 年の 258 人から 286 人に増え一人当たり患者数を 2.2 人(平均と同じ)となった。

なお、ホームページによると 2016 年 5 月に一部病棟の建て替えが行われている。



薫風会山田病院

西東京市南町 3-4-10

医療法人

措置・応急入院指定

TEL 042-461-0005

精神科病床:6 病棟 326

専門病床:精神科救急 47

開放病床 0 閉鎖病床 326 保護室 24

デイケア・ナイトケア・デイナイトケア実施

総合点 24 点

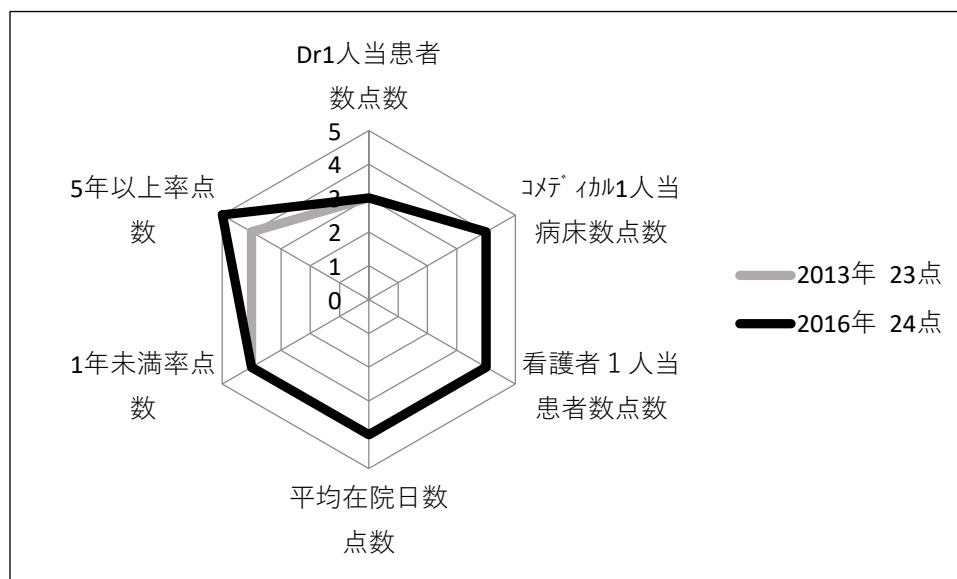
西武新宿線田無駅から徒歩 3 分と好立地である。

マンパワーをみる。2013 年と比して常勤医師が 11 人から 9 人に減り、非常勤医師は 16 人から 21 人となり非常勤医師依存型となった。コメディカルは 26 人から 27 人に微増し一人当たり入院者数は 11 人(都平均 15 人)と充実している。OT・PSW・心理の内訳は 9・14・3 から 7・15・5 となった。看護者数はほぼ変わらず一人当たり入院者数 1.9 人(同 2.2 人)である。

入院者 297 人の内訳だが、男性 106 人女性 191 人と女性が多いのが従来からの特徴である。疾病別構成でみると、脳器質が都平均並みの 16%、統合失調症は 52%(都平均 64%)と少なめ、気分障害が 26%(同 11%)と多い。65 歳以上は 45%(同 51%)と少ない。平均在院日数は 144 日(同 217 日)と 2013 年とほぼ変わらず。入院期間別構成では 1 年未満が 56%(同 44%)、3 カ月未満でも 34%(同 25%)と変わっていないが、5 年以上が 2013 年の 20%から 15%(同 29%)に減っている。この 20 年間活動性はアップしてきたが、2008 年に全閉鎖となり 2013 年には保護室は 12 から 24 に倍増した。

6 月 1 カ月の退院者 55 人中、家庭復帰が 45 人、82%と多く、転院は 4 人、7%(同 15%)と少ない。外来数は 1 カ月 1 床当たり 8.9 人(同 6.5 人)と多い。

1998 年以降措置指定を取得しサテライトクリニックを開設、スーパー救急病棟を設置し訪問看護ステーションを開設、更に生活支援センターを併設した。ホームページによれば、2013 年には認知症疾患医療センターを開設、2015 年には三障害に対応する障害者総合支援センター「フレンドリー」の指定管理者となったとのこと。



恩方病院

医療法人

措置・応急入院指定

八王子市西寺方町 105

TEL 042-651-3411

精神科病床:7 病棟 385 (総病床 470)

専門病床:急性期治療 60 認知症 50 精神療養 215

開放病床 104 閉鎖病床 281 保護室 16 施設できる個室 0

デイケア実施

総合点 23 点

2013 年と比較して全体の病棟、病床数には変化がないが、精神療養を 50 床減らして、認知症を 50 床設け、急性期治療 60 床をこの 3 年間で新設している。保護室は 4 室増えているが、開放 (27%)、閉鎖 (73%) の病床数、割合は変化していない。都平均は開放率 19% なので、8 ポイント上回っている。

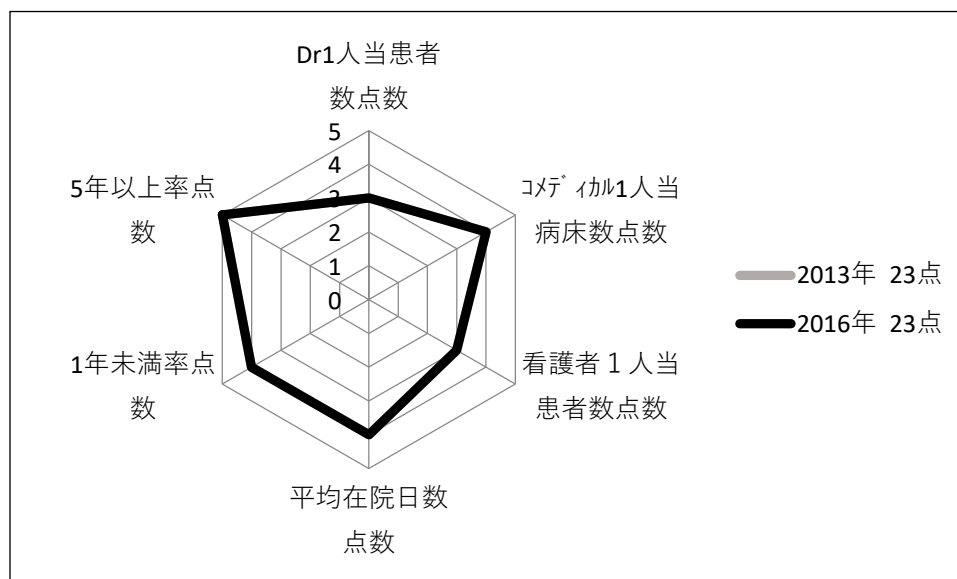
医師数が 13 人と 2013 年より 2 人減ったため、1 人当たりの患者数は 32 人 (都平均 27 人) と都平均より増えてしまった。コメディカルは 12.6 人 (同 15 人)、看護数は 2.0 人 (同 2.2 人) といずれも都平均より良い。

身体拘束は必要最小限に留めるべきとされているが、2016 年は 5% を超える病院が 21 もあり、全体の 30% に達している。身体拘束率を 0% と申告している病院は 20 カ所、1% は 8 カ所である。恩方病院の場合、拘束率は 1% (都平均 4%) で、マンパワーも合計点も平均値を上回っているため、1% は評価できる。さらに任意入院閉鎖率を見ると 41% (同 65%) で低い方からのベスト 20 に入る。

疾病別の構成は脳器質が 29% (同 14%) と都平均より多く、統合失調症が 49% (同 64%) と都平均より少ない。年齢分布は都平均に近い。年間外来延べ数も 2013 年に 5 年前より 15000 人以上多い 25000 人台になったが、2016 年には 24000 人台と少し減った。

入院期間については 1 年未満率が 56% (都平均 44%) で、5 年以上率は 13% (同 29%) と、都平均よりそれぞれ 10 ポイント以上良い。

ホームページを見ると「対話の医療」「最小限の薬物療法」「精神障害者の雇用」等々意欲的なコンセプトが列挙されている。



平川病院

医療法人

措置・応急入院指定

八王子市美山町 1076

TEL 042-651-3131

精神科病床:7 病棟 313 (総病床 349)

専門病床:急性期治療 44 認知症 45 精神療養 134

アルコール/薬物治療 50 合併症 40

開放病床 45 閉鎖病床 268 保護室 15

デイケア実施

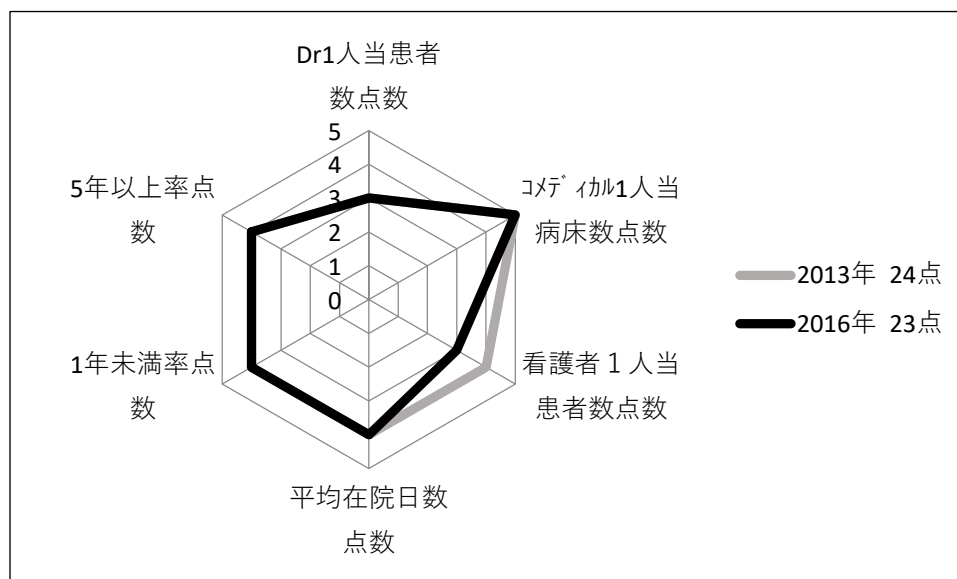
総合点 23 点

八王子駅から路線バス、送迎バスがある。タクシーだと 30 分かかる不便な立地。病院長は東京都精神病院協会の会長、日本精神病院協会の常務理事。市内にサテライトクリニック、グループホームをもつ。

マンパワーは 2013 年からほぼ変わらない。常勤医師は 10 人で、1 人当たり入院患者数 29 人(都平均 27 人)。コメディカルスタッフは PSW が 2 人増えて 12 人となり、作業療法士 13 人、心理 4 人と併せて 29 人、1 人当たり患者数 10 人(同 15 人)と充足率は高い。看護職員は 17 人減の 133 人で、1 人当たり患者数は 2.2 人と都平均並みである。

疾病別構成は専門病床の割合どおり、統合失調症が 54%、脳器質性疾患が 24%、アルコール 9%であり 2013 年と変化はない。平均在院日数は 2013 年の 230 日から 219 日(同 217 日)に短縮している。1 年未満率は 48%(同 44%)、5 年以上率は 26%(同 29%)である。

1 ヶ月 1 床当たり外来数は 6.3 人(同 6.5 人)と不便な立地の割には多く、デイケアも 1 ヶ月利用延べ数 832 人と活発である。



桜ヶ丘記念病院

多摩市連光寺 1-1-1

社会福祉法人

TEL 042-375-6311

措置・応急入院指定

精神科病床:8 病棟 467(総病床数 467)

専門病床:精神療養病床 187 認知症 50 精神科救急 47

アルコール 50

開放病床 0 閉鎖病床 467 保護室 39

ショートケア・デイケア実施

総合点 22 点

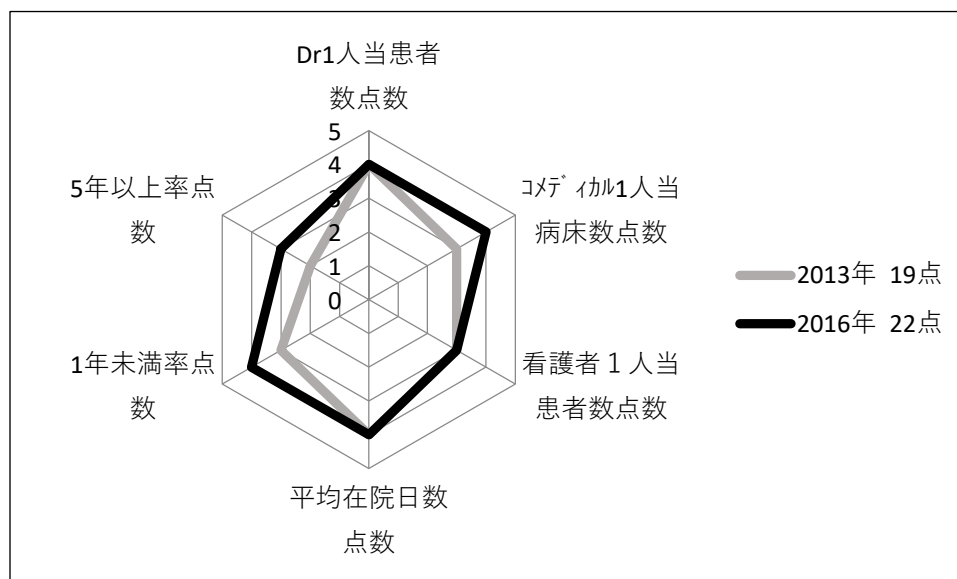
前回に比べ病棟が1棟減り、8病棟になった。病床数も51床減少した。だが、開放がすべてなくなり、全閉鎖となった。保護室は5室も増えた。

マンパワーは、常勤医師数が19から21人、コメディカルも25から28人に増員した。その一方、看護者は225から187人と38人も減った。

平均在院日数は177日(都平均217日)と前回から64日、短くなった。入院期間別では、3カ月未満が23%から34%(同25%)に増加。また、1年未満も34%から50%(都平均44%)と半数まで増えた。

だが、5年以上は35%で、前回の46%から減少したものの、都平均の29%を上回っている。また、55人(12%)が20年以上入院している。

前回に比べ、総合点はマンパワーの増員などで3点上昇した。



西八王子病院

八王子市上川町 215

医療法人

応急指定

TEL 042-654-4551

精神科病床:4 病棟 182 (総病床 227)

専門病床:急性期治療 41 精神療養 42

開放病床 141 閉鎖病床 41 保護室 8 施設できる個室 14

デイケア・ショートケア実施

総合点 22 点

京王線八王子駅と JR 線八王子駅から、無料シャトルバスがでている。

常勤医師数は 2013 年の 7 人から 6 人に減り、看護師は 76 人から 67 人に、心理は 3 人から 2 人に減り、PSW は 5 人から 7 人に増えた。

開放率が 77%(都平均 21%)と都内で 2 番目に高い。

処遇では、隔離率 2.5%(同 3.3%)、身体拘束率 1.3%(同 4.5%)、任意閉鎖率 18%(同 65%)となっている。平均在院日数は 246 日から 237 日となり、都平均 217 日に近づいたが、入院者の 46%を占める統合失調症患者の平均在院日数は 424 日と都平均 312 日より大幅に長い。

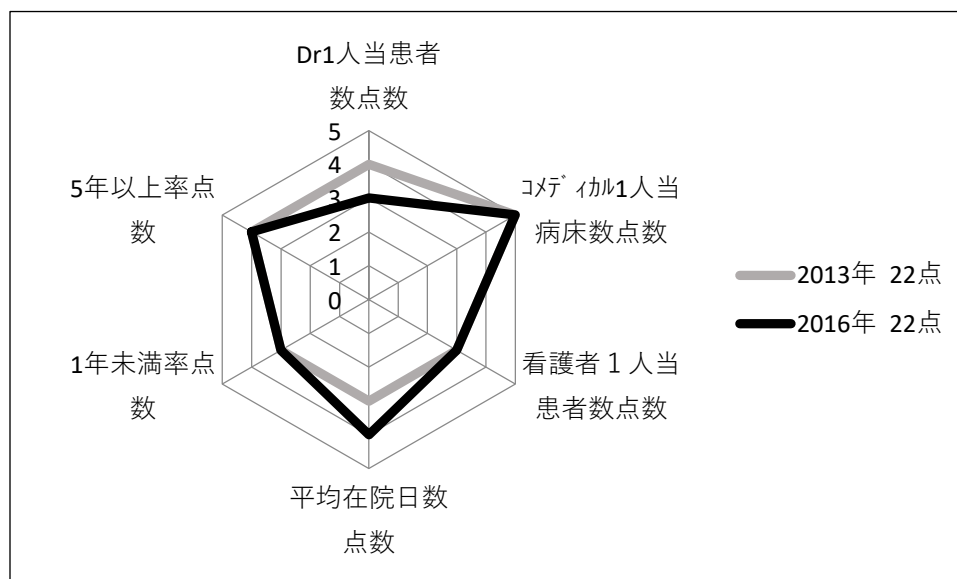
入院形態別では、医療保護入院が 24%と都平均 43%のほぼ半分の比率となっている。

気分障害の患者比率が 22%と都平均 11%の倍である。

都外率は、26%から 19%(同 14%)に減った。

ホームページによると、人工透析室は 21 床とある。

京王八王子駅前にサテライトクリニックが開設されている。



青梅成木台病院

青梅市成木 1-447

医療法人

措置入院指定

TEL 0428-74-4111

精神科病床:5 病棟 270

専門病床:急性期治療 34 精神療養 236

開放病床 60 閉鎖病床 210 保護室 6 施設できる個室 18

デイケア実施

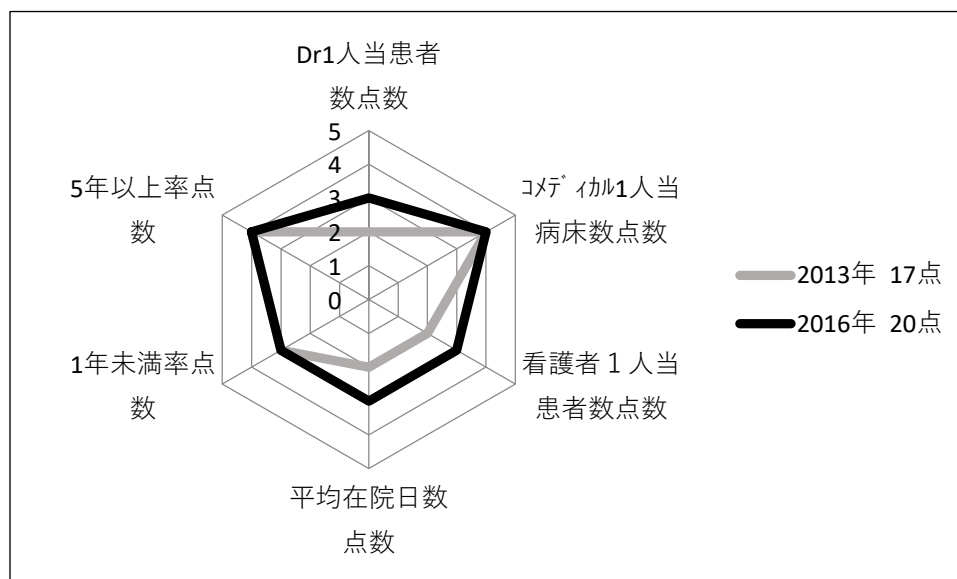
総合点 20 点

JR 青梅駅からバスで 20 分、西武線飯能駅からタクシー10 分と、埼玉県境に位置する不便な立地である。

2012 年に「西多摩医療圏認知症疾患医療センター」を受託し、「統合失調症モデル」から「認知症対応の精神科医療モデル」に転換したと病院ホームページにある。統合失調症が減って器質性精神障害が増えるという動きは 2013 年には既にあったが、2016 年には更に進んでいる。それぞれ 2013 年に 173 人(65%):57 人(21%)だったのが 2016 年には 134 人(55%):81 人(33%)となった。平均在院日数は 369 日から 253 日と短くなったが都平均 217 日には及ばない。1 年未満率は 40%と変わらないが、5 年以上入院者は 2013 年時の 73 人(27%)から 53 人(22%)に減り都平均 29%より少ない。65 歳以上率は 61%から 65%に増えている。

マンパワーは全体に増えている。2013 年に 6 人だった常勤医師は 9 人となり、受け持ち患者数は 45 人から 27 人と都平均並みとなった。看護者数も 75 人から 102 人となり、1 人当たり患者数は 2.4 人と都平均 2.2 人に近づいた。コメディカルスタッフは 17 人から 20 人に(うち、PSW は 7 人から 9 人に)増えた。

2014 年 4 月から措置指定病院となった。サテライトクリニックとグループホームをもつ。



鶴が丘ガーデンホスピタル 医療法人 措置・応急入院指定

町田市三輪緑町 2-2133-1 TEL 044-988-3121

精神科病床:4 病棟 200
 専門病床:急性期治療 44 精神療養 156
 開放病床 0 閉鎖病床 200 保護室 7 施設できる個室 7
 デイケア・ナイトケア・デイナイトケア実施
 総合点 20 点

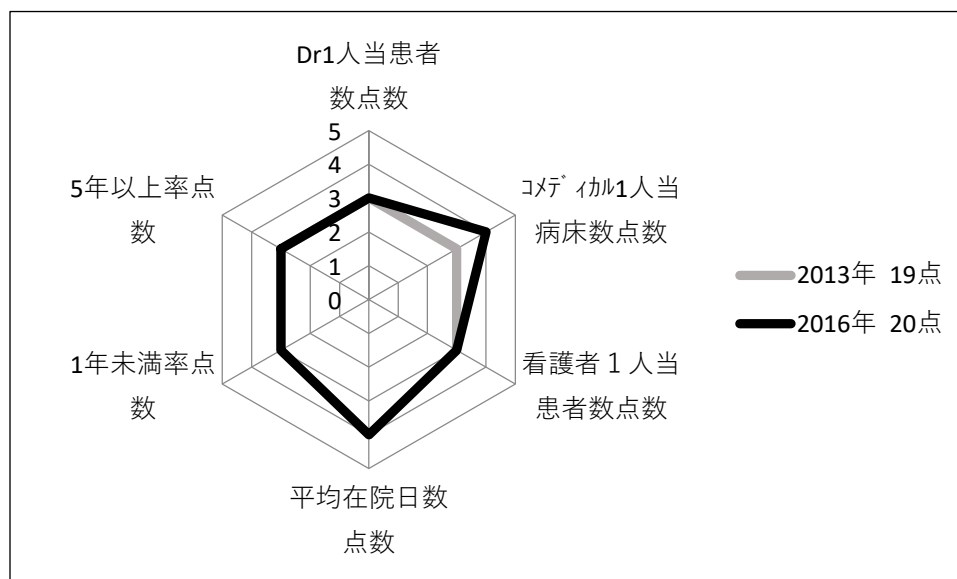
2013 年と 2016 年を比べると、4 病棟計 200 床は変わらないが、急性期治療が 48 床から 44 床になり、認知症 48 床がなくなり、精神療養が 56 床から 156 床に増えた。

マンパワーは医師 7 人、1 人当たり患者数 27 人(都平均 27 人)は変わらず、コメディカルは、心理 0 は変わらないが、OT が 5 人から 6 人に、PSW が 5 人から 7 人に増え、1 人当たり患者数が 19 人から 15 人(同 15 人)になって 3 点から 4 点に上がった。看護は正看護師が 31 人から 33 人にやや増えたが、総数は 93 人から 81 人に減って 1 人当たり患者数 2.2 人と、これも都平均に等しい。

活動性は、平均在院日数が 213 日から 214 日(同 217 日)と変わらないが、認知症病棟をなくしたためか脳器質性疾患が 35 人、19%から 29 人、16%にやや減って、その平均在院日数が 623 日から 960 日(同 257 日)に、さらに長期化している。約 70%を占める統合失調症の平均在院日数は 283 日から 249 日に短期化し、都平均 312 日に比べても短い。病名別ではアルコール・薬物等依存症が 0 であることも特徴である。また従来入院者の年齢が若いと評してきた病院であるが、65 歳以上が 2008 年 24%、2013 年 36%、2016 年 42%(都平均 51%)と増えてきている。

任意入院は 113 人、59%(同 56%)で変わらず、全閉鎖なので任意入院閉鎖処遇率は 100%である。隔離は 5 人で変わらず、身体拘束は 3 人、1.6%から 6 人、3.2%(同 4%)に増えている。

小田急線鶴川駅からバス 5 分の立地。2013 年 12 月に長津田駅前にサテライトクリニックを開設。それもあってかデイケア、デイナイトケアの利用人数は増えているが、病院全体の年間外来数は 27,000 人から 25,000 人に減っている。



根岸病院

医療法人

措置入院指定

府中市武蔵台 2-12-2

TEL 042-572-4121

精神科病床:8 病棟 450

専門病床:急性期治療 59 精神療養 391

開放病床 116 閉鎖病棟 334 保護室 7 施設できる個室 4

デイケア実施

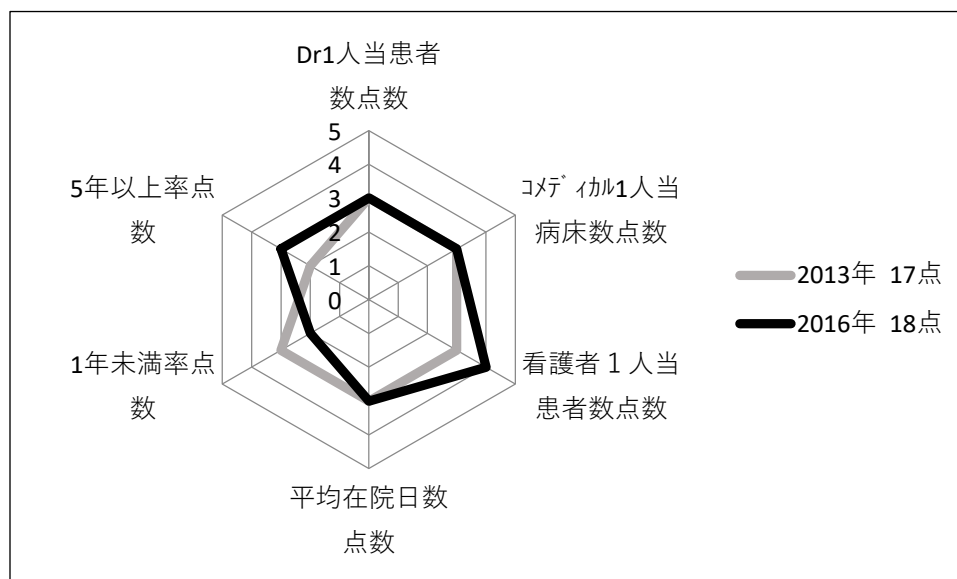
総合点 18 点

前回 2008 年から 2013 年にかけては、開放病床を 100 床以上減らすなど大きな変化があったが、2013 年から 2016 年の 3 年間は、設備・環境面では変わらない。

マンパワーは常勤医師が 12 人から 10 人に減り、1 人当たり患者数が 39 人と都平均(27 人)との差が広がった。コメディカルは 2013 年と全く変わらず、OT17 人、PSW4 人、心理 2 人と作業療法重視の配置である。看護師はレーダーチャートで 1 点増やしているが、その内訳は 188 人から 196 人に、正看 3 人を含む 8 人増である。

活動性では、平均在院日数が 2008 年 198 日(都平均 261 日)、2013 年 321 日(同 230 日)、2016 年 344 日(同 217 日)と増える傾向であり、年間外来延べ数も 2013 年と 2016 年を比較すると 32,000 件から 29,000 件と減少、デイケアも月間 830 件から 720 件に減っている。1 年未満在院者率が 33%から 28%に減少して 1 点減らしたが、5 年以上在院者率は 42%から 37%に減って 1 点上げている。ちなみに 20 年以上在院者は、この 3 年で 48 人から 39 人に減っている。

在院者の構成では、2013 年と比して統合失調症入院者の割合が 75%から 81%(都平均 64%)に増え、その平均在院日数は 434 日から 486 日(同 312 日)と、統合失調症の人を多く入院させ、その入院が長期化するという従来の施設型精神病院の形である。この間認知症疾患医療センターを新設しているが、脳器質性疾患の入院者は 2013 年 28 人から 2016 年 31 人とそれほど増えていない。しかし年齢構成は、65 歳以上が 50%(都平均 49%)から 57%(同 51%)へと、都平均を超えて高齢化が進んでいる。



処遇では、任意入院が2008年には60%(同60%)だったのが、前回2013年に47%(同54%)に減少したと指摘したが、2016年は46%(同56%)と変わらず。任意入院閉鎖処遇率は53%(同65%)と都平均よりはましである。隔離は2013年5人、2016年4人、身体拘束は同じく1人、0%(同5%)から、4人、1%(同5%)と、それほど多用されていない。

JR 西国分寺駅から徒歩圏内、都立多摩総合医療センターに隣接する立地。2019年には創立140年を迎えたという都内で最も古い民間精神病院である。

斎藤病院

医療法人財団

措置入院指定

府中市浅間町 4-1

TEL 042-363-8121

精神科病床:3 病棟 188

開放病床 100 閉鎖病床 88 保護室 9 施錠できる個室 20

デイケア実施

総合点 17 点

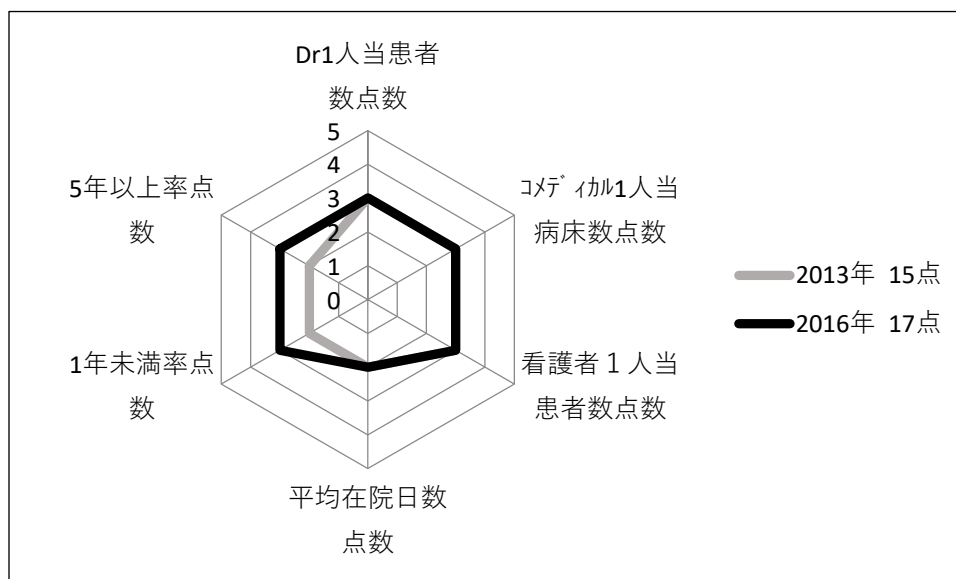
開放病床を 4 床減らし、100 床としているが大きな変化はない。

平均在院日数は、2013 年の 422 日→366 日(都平均 217 日)、1 年未満入院者率 25%→30%(同 44%)、5 年以上入院者率 41%→37%(同 29%)と活動性がやや高くなっており総合点を 2 点上げている。統合失調症入院者 89%(同 64%)は、変わらず多い。その平均在院日数は 493 日→435 日(同 312 日)となっている。任意入院率 32%(同 56%)、任意入院者の閉鎖処遇率 23%(同 65%)。目立つのは隔離患者数が 32 人、20%(同 3%)と多いこと。保護室 9 床と施錠できる個室 20 床あわせて 29 床の隔離室に 32 人をどうしているのか不可解。身体拘束数も 7%(同 4%)と決して少なくない。

病院を住所としている人 25 人、15%(同 6%)も多い。

スタッフ数をみると医師数 6 人は変わらないが、看護師が 66 人→71 人、コメディカル 8 人→10 人とやや増えている。

京王線府中駅からバス 10 分。



高月病院

医療法人

措置・応急入院指定

八王子市宮下町 178

TEL 042-691-1131

精神科病床:9 病棟 516

専門病床:認知症治療 60 精神療養 180

開放病床 230 閉鎖病床 286 保護室 26

デイケア実施

総合点 15 点

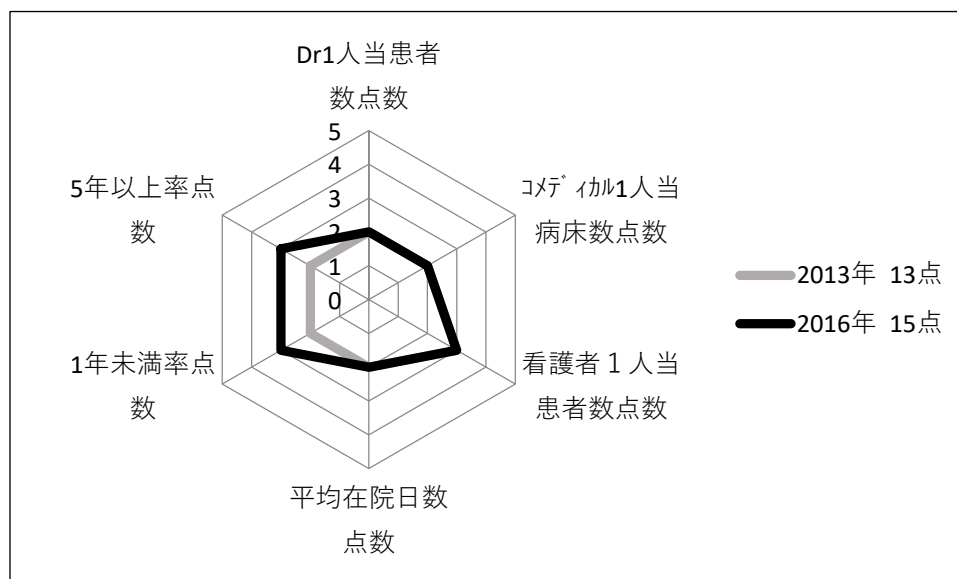
交通の便の悪い場所にあり、JR 八王子駅と JR・西武拝島駅から送迎バスが出ている。古くから長期入院的性格の強い病院である。

2013 年から 2016 年の変化をみると、平均在院日数が 2013 年の 521 日から 426 日に短くなっているが、都平均 217 日には及ばない。10 年以上率は 23%前後で変わらない。また、入院者の 69%を占める統合失調症の平均在院日数は 730 日と長い(都平均 312 日)。そして、5 年以上入院者は 194 人だが、その 77%の 150 人が任意入院である。

6 月 1 ヶ月の退院者の 26%が転院であり(同 15%)更なる後方病院送りではと気になるところだ。また、2013 年に 86 人だった病院住所者数が 29 人に減っているのは何らかの取り組みがあったのだろうか？保護室が 2013 年の 12 室から 26 室に増えていることも大きな変化である。

職員の充足率は全体に都平均を下回るが、2013 年からの 3 年で常勤医師が 10 人から 12 人に増え 1 人当たり入院者数は 41 人になった(同 27 人)。看護師、コメディカル数はほとんど変化がない。

昭島市に 2 ヶ所の精神科診療所と訪問看護ステーション、杉並区に 1 ヶ所の精神科診療所を持つ。病院に隣接してグループホームがある。「隣接する」ことの問題に加え、そもそもが不便な立地の病院であり、それは果たして生活の場と言えるのだろうか。



多摩病院

医療法人

措置・応急入院指定

八王子市中野町 2082

TEL 042-623-5308

精神科病床:6 病棟 332

専門病床:精神療養 120

開放病床 120 閉鎖病床 212 保護室 11 施設できる個室 7

デイケア実施

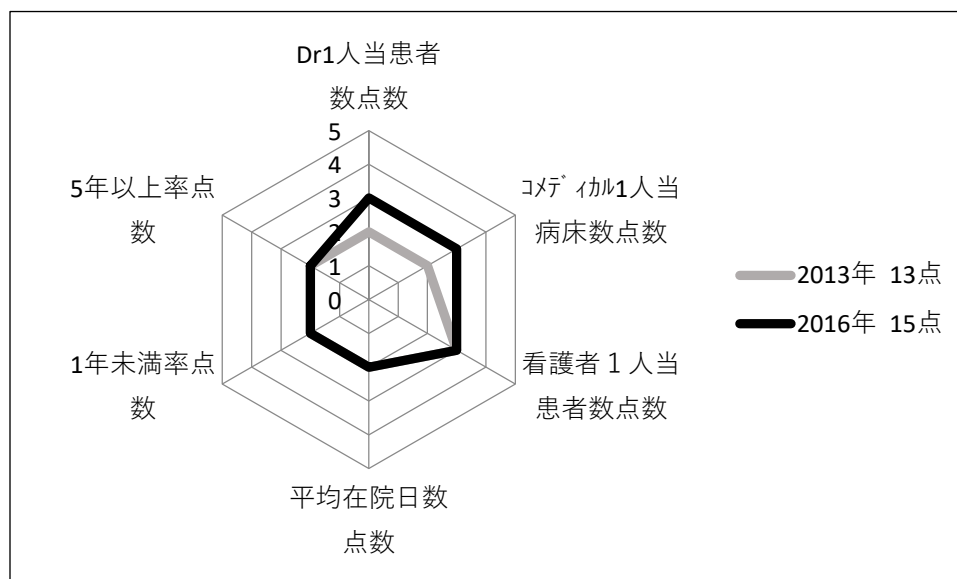
総合点 15 点

八王子駅よりバス 25 分、住宅地の中にある。1938 年に設立された。2013 年と比べると 384 床から 332 床に減らし、開放病床を 180 床から 120 床に減らしている。閉鎖病床率が 53%から 64%となっている。他の多くの措置指定病院が閉鎖病床偏重の中で、遅ればせながら後を追おうとしているのか？

スタッフについてみると、この間医師数の変化は、ほとんどない。コメディカルが 12 人から 15 人に増えている。常勤看護師が 147 人から 131 人に減っている。看護師一人当たり患者数 2.3 人(都平均 2.2 人)。

活動性については、平均在院日数が 437 日から 388 日(同 217 日)、1 年未満入院者率 23%から 30%(同 44%)、5 年以上入院者率 47%から 43%(同 29%)となり少々良くなっているが、相変わらず入院期間が長い。統合失調症と診断されている入院者が 80%(同 64%)と高いのは変わらず。閉鎖病床の増加に伴い、任意入院率が 64%から 44%となっているが、任意入院者の開放率は 47%から 57%(同 35%)と高くなっている。身体拘束が 36 人 11%から 45 人 15%(同 4%)とさらに多くなっている。

ホームページによると、2019 年には病床数を 306 床と更に減らし、急性期病棟を開棟している。



三恵病院

医療法人

東村山市青葉町 3-29-1

応急入院指定

TEL 042-391-3035

精神科病床:6 病棟 315

専門病床:精神療養 110

開放病床 55 閉鎖病床 260 保護室 8

デイケア実施

総合点 14 点

平均在院日数が 478 日と 2013 年の 748 日に比べ大幅に短縮したが、まだまだ都平均の 217 日の 2 倍以上と長いことに変わりはない。1 年未満入院率も 16% から 28% (都平均 44%)、5 年以上入院者率についても 55% から 49% (同 28%) と退院に向けての動きがみられるが、いずれも都平均を下回っている。因みに 2013 年の 1 年未満入院率は都内ワースト 4 位と不名誉な結果だった。

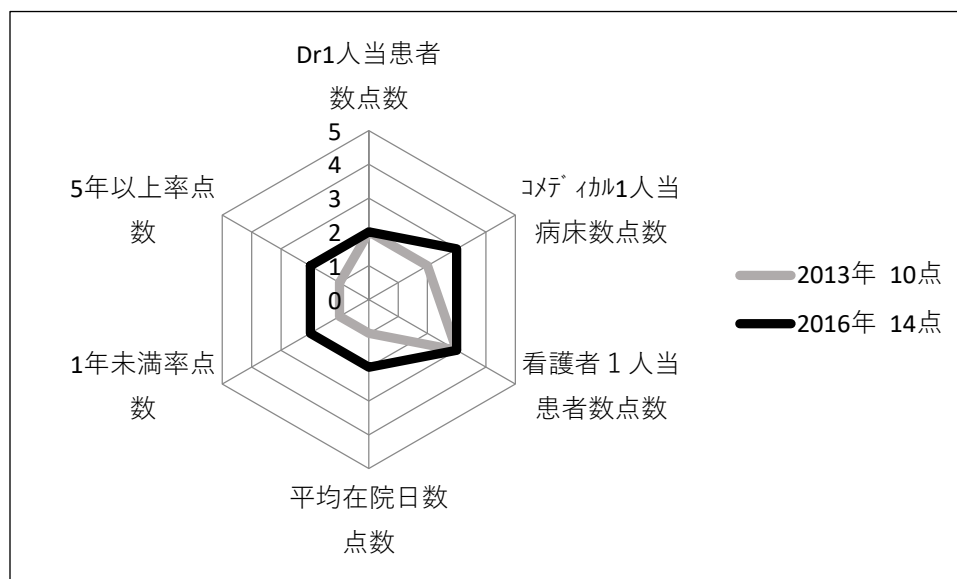
年齢別では 65 歳以上が 53% (同 51%) と半数以上を占めている。病名別では統合失調症が 84% (同 63%) と大半を占めている。

病床数は 337 床から 22 床減った。内訳は閉鎖が 21 床増え 260 床、開放が 43 床減り 55 床。マンパワーは、常勤医師が 6 人から 7 人に増えたが、看護師は 18 人減り 101 人に。コメディカルは 8 人から 14 人に増えた。その内訳は PSW が 4 人増、OT が 2 人増。

2013 年は最低ランクの 10 点だった総合点が、今回は 14 点に上がっており、活動性が向上している。

平均在院日数は短くなったが、その一方で、高齢の長期入院者が徐々に増えている状況がうかがえる。今後は、高齢化した入院者をどのように退院させるかが課題となりそうだ。

JR 武蔵野線新秋津駅、西武池袋線秋津駅から徒歩 16 分。住宅街の中にある。



東京海道病院

青梅市末広町 1-4-5

医療法人

措置・応急入院指定

TEL 0428-32-0111

精神科病床:7 病棟 450

専門病床:精神療養病床 400 認知症 50

開放病床 0 閉鎖病床 450 保護室 14

デイケア実施

総合点 14 点

総合点は前回と同じ。病床数、全閉鎖など設備も変わっていない。

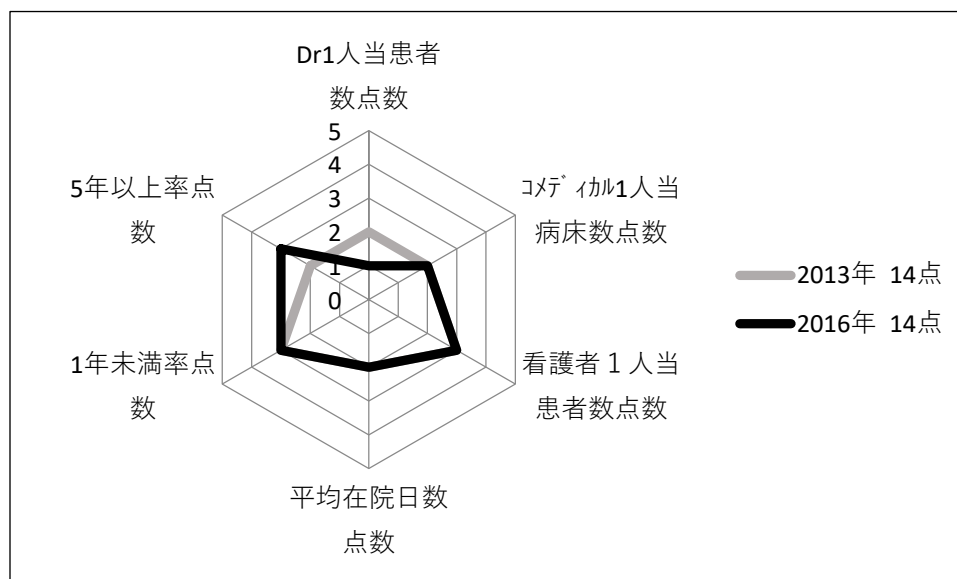
常勤医師数は 7 人で前回から 3 人も減らし、1 人当たりの患者数は 62 人(都平均 27 人)、また、コメディカルの一人当たりも 33 人(同 15 人)。医師もコメディカルも都平均の 2 倍以上の負担がかかっている。看護者も一人当たり 2.4 人と(同 2.2 人)とマンパワーは不足している。

平均在院日数は 375 日(同 217 日)と前回に比べ 82 日短縮した。だが、入院期間は 3 か月未満が 16%(同 25%)と少なく、5 年以上が 33%(同 29%)と多い。積極的に退院に取り組んでいるとはみえない。65 歳以上が 64%(同 49%)と多く、高齢者の退院が今後の課題となっている。

疾病別では統合失調症が 65%(同 63%)、脳器質性 20%、気分障害 5%となっている。

身体拘束は 51 件、11%(同 4%)と前回の 66 件に比べ減少したものの、依然として多い。また、死亡退院率は 7%(同 3%)だった。

JR 小作駅から徒歩で 20 分。青梅市内の精神病院の中では立地は最も良く、また、大規模、指定病院であることを考えると、早急な改善を期待したい。



多摩済生病院

社会福祉法人

措置入院指定

小平市美園町 3—11-1

TEL 042-341-1611

精神科病床:5 病棟 262 (総病床 425)

専門病床:合併症 48

開放病床 94 閉鎖病床 168 保護室 19 施設できる個室 0

デイケア実施

総合点 13 点

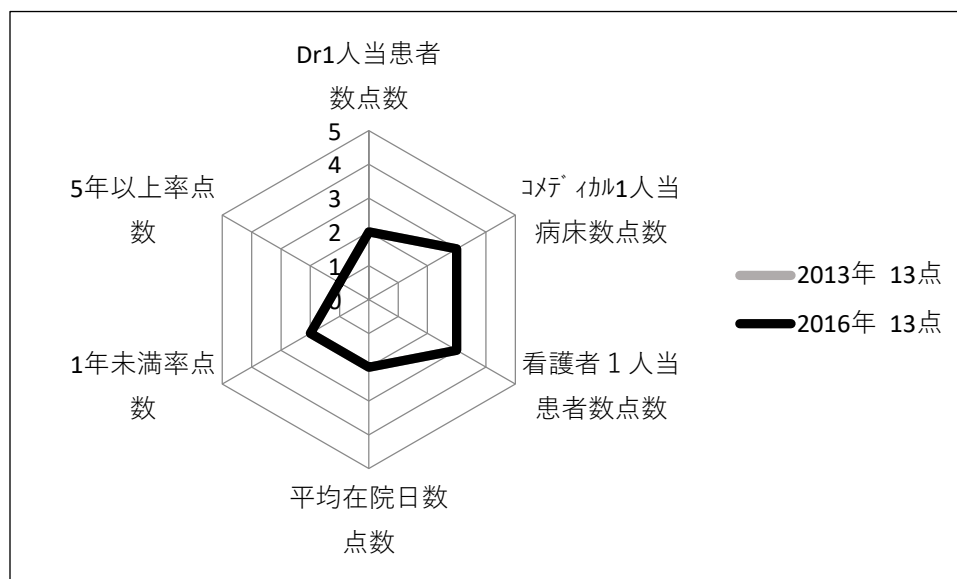
措置指定病院にもかかわらず、総合点数が 13 点。

前回に比べ、病床数に変化はないが、保護室が 6 室減った。常勤医師数は 1 人増え 5 人になったが、一人当たりの患者数は 42 人(都平均 27 人)と不足している。また、一応、看護者も 85 人から 93 人に増えたものの、一人当たりは 2.3 人(同 2.2 人)と不十分な状況が続いている。なお、コメディカルは 10 人のまま変わっていない。合併症病床を抱えているのに、この職員体制には不安を感じる。

平均在院日数は措置指定病院としては最長クラスの 423 日(同 217 日)。前回の 508 日に比べ 85 日短縮したが、都平均の 2 倍と驚愕の長さだ。また、1 年未満 21%(同 44%)、5 年以上が 67%(同 29%)、と全く退院を進める姿勢はみられない。高齢化についても 65 歳以上が 68%(同 51%)を占め、死亡退院率は 13%(同 3%)。この悪い状況を早急に改善していただきたい。因みに生活保護率は 30%(同 31%)。

疾患別では統合失調症が 81%と大半、次いで気分障害が 8%、精神遅滞 2%となっている。

西武新宿線小平駅から徒歩 5 分と立地条件は良い。敷地内には多摩済生園(特別養護老人ホーム)、多摩済生ケアセンター(通所介護、訪問介護、訪問看護)がある。1936 年に多摩済生院(結核療養所)として創立。その後、1958 年に現在の多摩済生病院に名称変更。1959 年から国策として進められていた精神病床の増設に着手し、現在に至っている(ホームページ)。



東京高尾病院

財団法人

措置入院指定

八王子市高尾町 2187

TEL 042-661-6652

精神科病床:7 病棟 331

専門病床:精神療養 170

開放病床 0 閉鎖病床 289 その他病床 42 保護室 5

施設できる個室 2

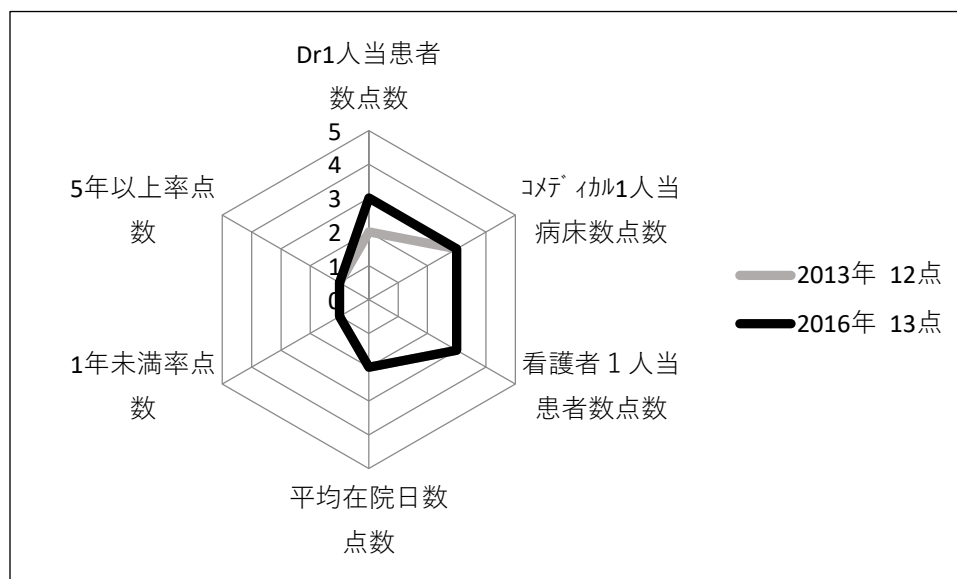
総合点 13 点

総合点 13 点。措置指定病院としては非常に低い。Dr が 1 点あげているが、スタッフ数や活動性のそれぞれの点数は変化もない。42 床あった開放病床が 0 となり、その他病床 42 となっている。平均在院日数は、674 日から 521 日(都平均 217 日)とやや短くなっているが、5 年以上入院者率 64% (同 29%)、1 年未満入院者率 13%(同 44%)と活動性の低さが目立つ。年間外来数 2,267 人も相変わらず少ない。65 歳以上入院者率 65%(同 51%)、生活保護受給者の入院者率 44%(同 31%)と高い。その中で目立つのは、隔離患者数 1. 身体拘束患者数 0(前回は 0.0 であったが)の数字である。マンパワー

他の病院と異なる傾向は、任意入院率が 61%(都平均 54%)から 75%(同 56%)と多くなっている。任意入者が増えたのに開放病床が 0 となったのはどうしてだろうか？任意入院者の閉鎖率は前回の 84%(同 57%)と同様 84%(同 65%)である。

ホームページによればアルコール依存症専門病床 50 床がある。(2008 年版までは統計にアルコール専門病床が 50 床が掲載されていたが 2013 年からは統計上は 0 となっている。)ちなみにアルコール依存症の入院者 49 人、16%(同 14%)、統合失調症入院者 173 人、55%(同 64%)である。

京王線高尾山口駅から徒歩 10 分、高尾山登山道の入り口に建っている。



小金井病院

医療法人

措置入院指定

小金井市前原町 4-4-47

TEL 042-381-1658

精神科病床:5 病棟 300

専門病床:精神療養病床 180

開放病床 120 閉鎖病床 180 保護室 20

デイケア実施

総合点 13 点

全体的に平均在院日数が短縮される中、この病院では 517 日と都平均 217 日の 2 倍以上、2013 年の 496 日に比べ伸びた。

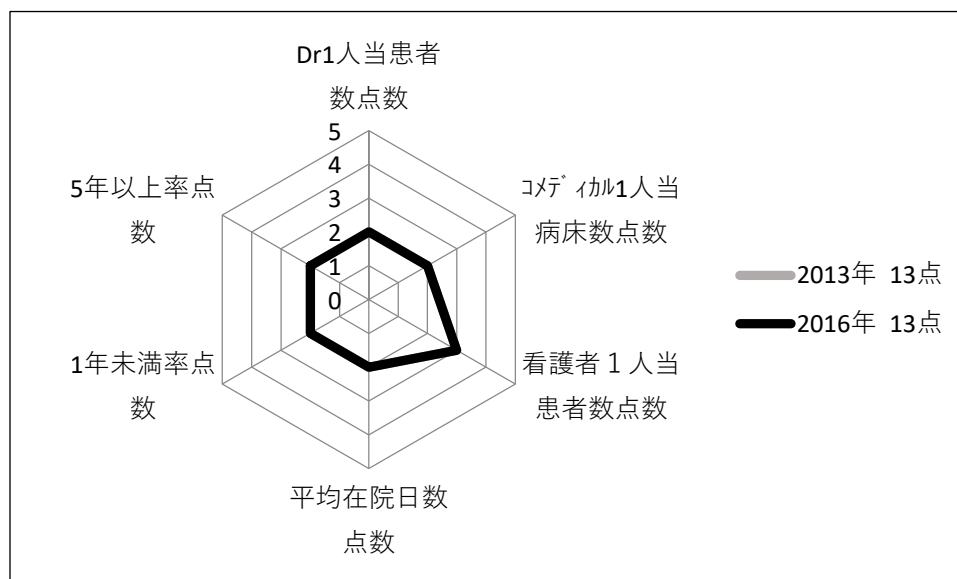
2013 年に比べ常勤医師が 1 人減り 4 人、コメディカルは PSW が 1 人増え 7 人となった。看護者については記載がない。

3 カ月未満の入院率はたったの 7%(都平均 25%)、1 年未満も 23%(同 44%)と低いまま。一方、5 年以上入院率も 41%(同 28%)とほぼ変わらない状態が続いている。統合失調症が 91%(同 63%)という特徴にも変化はみられなかった。

任意入院の閉鎖率は 49%(同 65%)と約半分が開放にいたるのになぜ退院が増えないのだろうか。中央線沿線、JR 武蔵小金井駅からバス 10 分ほどで、交通の便は悪くないのに、1 ヶ月 1 床当たり外来者数は 1.2 人(同 6.5 人)と最低レベルの状態が続いている。

以上のようにマンパワー、活動性などにほぼ改善はみられていない。急性期を導入するなど、生き残りに必死な病院も少なくない昨今、ここでは長期入院が常態化しているのに、何の策も打ち出さないまま、ただ時間だけが過ぎたため平均在院日数が伸びてしまったようだ。

この活動性の低さで措置指定が継続されていることに疑問を感じる。



東京青梅病院

青梅市富岡 3-1254

医療法人

応急入院指定

TEL 0428-74-7111

精神科病床:7 病棟 429

専門病床:認知症治療 120 精神療養 120

開放病床 183 閉鎖病床 246 保護室 12

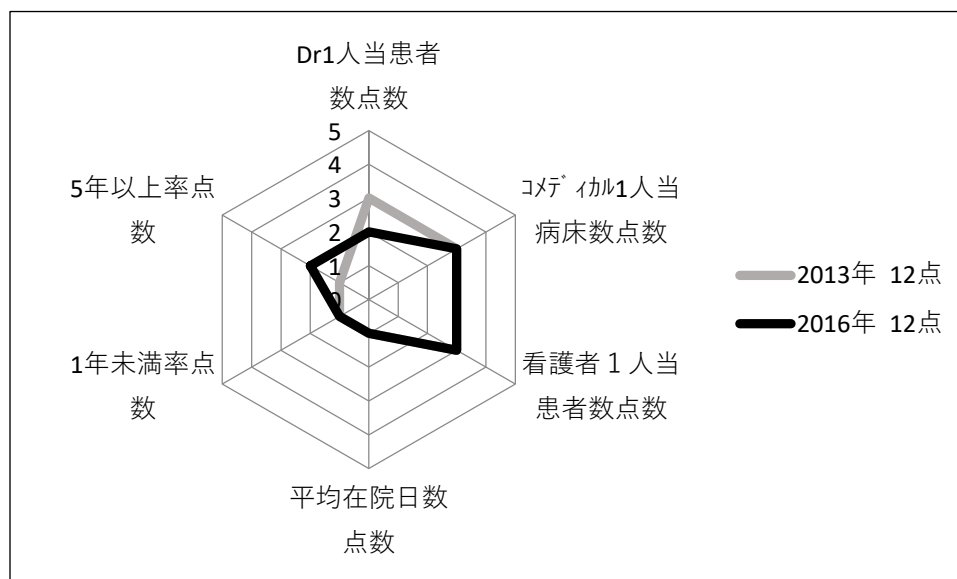
総合点 12 点

JR 河辺駅、東青梅駅、西武線飯能駅からバス。タクシーで 10～15 分。埼玉県境に位置する。不便な立地である。経営母体の医療法人は青梅市内に東京海道病院を持ち、併せて 900 床弱となり市内精神科病床の半数を占める。

平均在院日数は 1,141 日と長い(都平均 217 日)。入院者の疾病別割合は統合失調症が徐々に減り 52%となり、脳器質性疾患(認知症など)が増え 37%となった。それぞれの疾患別の平均在院日数を見ても、統合失調症 1,352 日(同 312 日)、脳器質疾患 1,216 日(同 257 日)と長い。前年 6 月中に入院した人の残留率は 83%と非常に高い(同 9%)。ようやく退院できた方の行く末も気になる。6 月 1 ヶ月の退院者 6 人の内、転院が 4 人で家庭復帰は 0 であった。65 歳以上率は 71%(同 51%)まで増え、死亡退院率は 30%(同 3.3%)とかなり高い。2013 年に 133 人だった 10 年以上入院者が 125 人に減っているが、死亡や合併身体病による転院のための減少と推測される。

マンパワーでは 2013 年と比べ、常勤医師は 2 人減の 8 人となり、OT は 3 人増の 14 人となったが、医師、コメディカルスタッフ共に都平均の充足度を下回る。一方、看護職員については 1 人当たり患者数 2.2 人と都平均並みを維持している。

その他、生活保護率が 40%と高い(都平均 31%)こと、病院住所率が 18%(同 6%)と高いことが特徴的である。2013 年から応急入院の指定を取得した。



西ヶ原病院

医療法人

北区西ヶ原 2-46-9

TEL 03-3917-6561

精神科病床:2 病棟 110

専門病床:精神療養 43

開放病床 0 閉鎖病床 0 その他 110 保護室 4

デイケア、ナイトケア、デイナイトケア実施

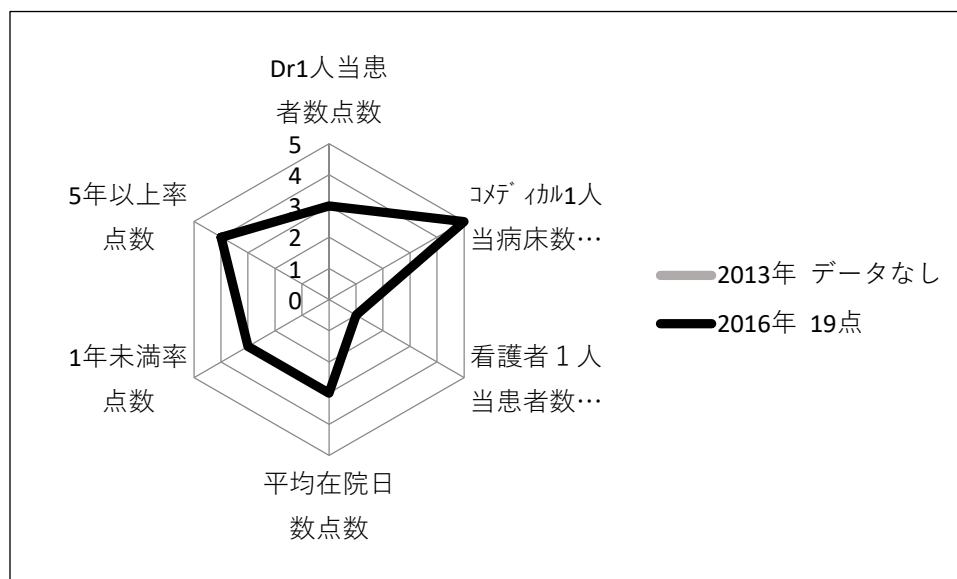
総合点 19 点

2013 年の統計では医師、コメディカル、看護者の数が無回答であったが、今回は常勤医師 3 人、コメディカル 10 人、看護 21 人と報告している。一人当たり患者数はコメディカルが 9 人と都平均 (15 人) より良いが、医師 31 人 (都平均 27 人) と看護者 4.5 人 (同 2.2 人) は共に都平均より悪く、特に看護者 1 人当たりの患者数が 4 人を超えるのは青梅厚生病院 (5.2 人) とここだけである。

平均在院日数は 2008 年 356 日だったものが、2013 年には 220 日と都平均 230 日より少ない日数を達成した。ところが 2016 年には 290 日 (都平均 217 日) と 3 年前を 70 日も上回る日数に逆戻りしている。

在院 1 年未満率 45% (同 44%) と 5 年以上率 23% (同 29%) を 2013 年 (1 年未満 47%、5 年以上 25%) と比較しても 2 ポイントの減少とあまり変化していない。

任意入院率が 83% (都平均 56%) とかなり高く、開放でも閉鎖でもない「その他」(病棟の出入り口を施錠しないのが 1 日 4 時間) であり、東京メトロの駅直近という地の利に恵まれていることを考慮すると、精神医療先進国にある病院以外の形態 (例えばクライシスセンター等) へ転換されてはどうか？



愛誠病院

公益財団法人

板橋区加賀 1-3-1

TEL 03-3961-5351

精神科病床:5 病棟 318(総病床 441)

専門病床:なし。一般精神病床のみ

開放病床 65 閉鎖病床 253 保護室 11

デイケア実施

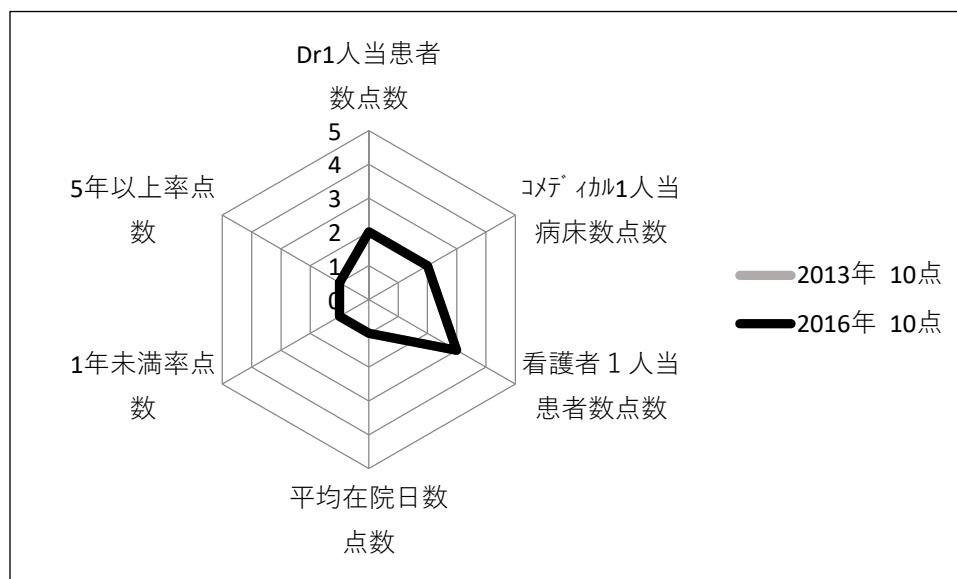
総合点 10 点

2013 年と比較して病床数には変化がないが、開放病床が 128 から 65 と大幅に減少し、その分閉鎖病床が 190 から 253 と増えている。「閉鎖にして集中的に治療し、早く出す」という説もあるようだが、この病院の場合、閉鎖にして何と平均在院日数は 2013 年の 963 日から 1106 日と増え 4 桁になってしまった。都平均との乖離も進み、2013 年は都平均(230 日)の 4 倍であったが、2016 年には都平均が 217 日と減少したため、都平均より 5 倍も長く入院させていることになった。閉鎖病床に長く入院することは患者さんの負担も大きいのではないと思われるが、長期であるばかりでなく、この病院は身体拘束率も 14%(都平均 4%)と多摩病院と並んで最も高い。

平均在院日数と関係するので当然、在院期間別入院者数の 1 年未満率は 16%(同 44%)と低く、5 年以上率は 53%(同 29%)と入院者の半数を越えている。いったん入院したら半数の人が 5 年以上の入院になってしまうということだ。

合計点は 2013 年と変わらず 10 点で、これは都内全体では協和病院と同点のワースト 3 位だが、23 区内の病院に限れば最下位である。医師 1 人当りの患者数は医師が 1 人増えたため 49 人と 2013 年の 60 人よりはだいぶ改善されたが、まだまだ都平均 27 人とは 20 人以上の開きがある。コメディカルも 1 人当り患者数は 30 人(同 15 人)と都平均の倍近い人数である。都平均からの乖離がまだまじなのが看護師 1 人当り 2.6 人(同 2.2 人)である。

ホームページを見ると病院へのアクセスは 4 路線 5 駅でまさに便利な街の中にある。しかも都外の人たった 7%(同 14%)で患者のほとんどが東京の人である。場所的に退院の準備や退院後のサービスに問題がある地域とは思えない。なんでこんなにマンパワーが不足し、超長期入院なのだろう。



ホームページを見ると精神科病床が総病床数の72%を占めるにもかかわらず、理念や目標のところに精神医療に直接関係した言及が全くない。内科や外科などの他科や健康管理センター、関連施設である介護老人保健施設や歯科技工専門学校等に注意と関心のほとんどが向けられているようだ。300人近い精神科の入院患者に対して病院として余りにも無責任ではないか？

北野台病院

医療法人

八王子市打越町 1068

TEL 042-637-1001

精神科病床:4 病棟 212 (総病床 252)

専門病床:精神療養 120

開放病床 120 閉鎖病床 92 保護室 10

ショートケア実施

総合点 15 点

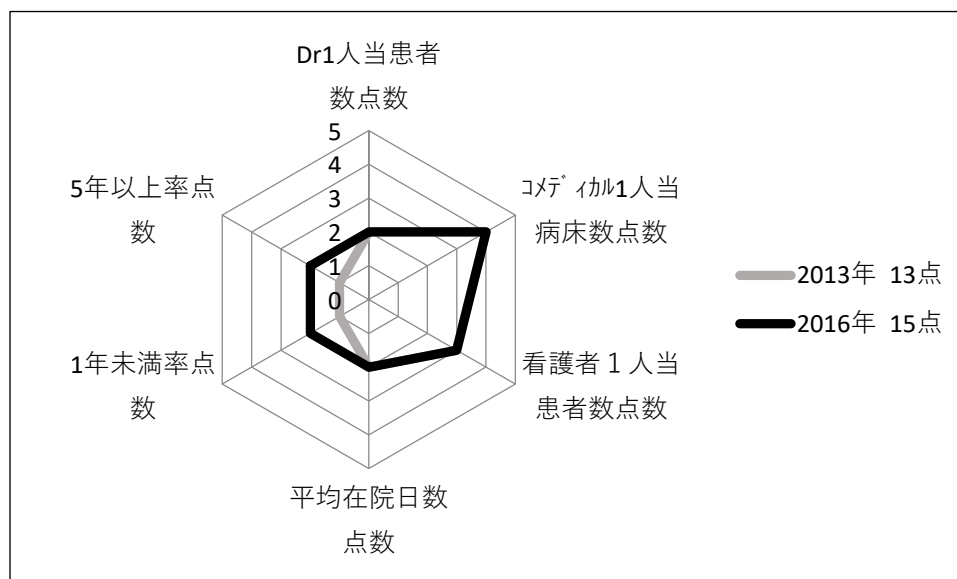
京王線北野台駅より徒歩 15 分、同駅と JR 線八王子駅から路線バスと送迎バスがある。

2013 年と比べると常勤医は 4 人と変わらず、1 人当たり患者数 51 人(都平均 27 人)と医師数が少ない。コメディカルは、OT11 人 PSW が 1 人増えて 3 人心理 1 人で、15 人になった。看護者は 72 人から 79 人に増えたが、1 人当たり患者数は 2.6 人(同 2.2 人)と看護者も少ない。

入院 1 年未満率が 18%から 27%、5 年以上率が 52%から 43%になり、平均在院日数は 702 日から 576 日と大幅に短くなったが、都平均 217 日の倍以上である。なかでも、入院者の 60%を占める統合失調症の平均在院日数は 811 日(同 312 日)と長い。

年齢別では、65 歳以上率が 69%(同 51%)と高く、脳器質性の割合は 25%(同 14%)と多い。死亡退院率は 19%(同 3%)と高い。

また、生活保護受給者率が 37%(同 31%)、病院住所率 14%(同 6%)と高い。



こころのホスピタル町田

町田市上小山田町 2140

医療法人

TEL 042-797-0957

精神科病床:8 病棟 378

開放病床 86 閉鎖病床 292 保護室 6

デイケア・デイナイトケア実施

総合点 13 点

町田市と多摩市の境にある。京王相模原線南大沢駅と JR 横浜線相模原駅から無料送迎バスが出ている。

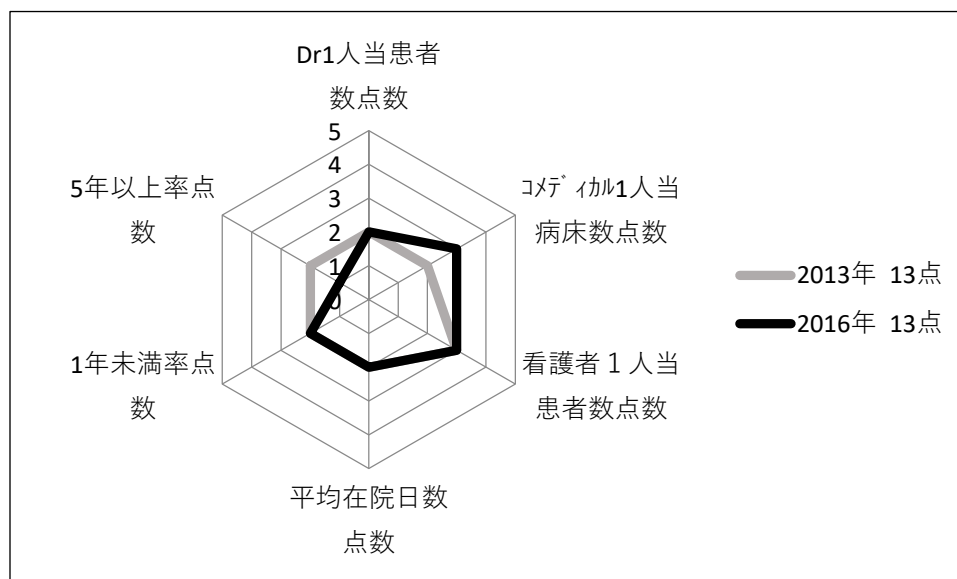
2013 年と比べると、看護者数が 153 人から 141 人に減っている。コメディカルは、PSW が 6 人から 8 人、OT が 6 人から 7 人、心理が 2 人から 3 人と増えている。

2014 年から大規模デイケアとデイナイトケアを開設していて、6 月 1 カ月のショートケア利用者数が 49 人(2013)→217 人(2016)と増えているが、デイケアは 200 人→141 人と何故か減っている。

開放病床は 156 床から 86 床に減り、閉鎖は 222 床から 292 床に増えている。それに伴い 182 人いる任意入院患者(入院者の 51%)の閉鎖率は 42%から 59%に増加している。保護室は 11 から 6 に減少している。

平均在院日数は、630 日から 412 日になったが、20 年以上入院者が 31 人から 68 人に増えており、5 年以上在院率が 43%から 53%へと増加している。また、入院者の 65 歳以上率は 53%から 62%(都平均 51%)に増加、それに伴い脳器質性障害の患者率が 11%から 16%へと増加している。平均在院日数の減少は、統合失調症入院者率が 70%から 56%に減り、その平均在院日数が 1,091 日から 598 日と短くなったことが影響していると思われる。

生活保護入院者率 41%(同 31%)、死亡退院率は、9%(同 3%)と高い。



滝山病院 個人

八王子市犬目町 641

TEL 042-654-6131

精神科病床:5 病棟 300

専門病床 :認知症治療 60

開放病床 60 閉鎖病床 240 保護室 3

総合点 13 点

死亡による退院者の多さで群を抜いているのが特徴の病院。2013 年に年間退院者 176 人のうち 114 人、65%が死亡による退院であった。今回は、年間退院者 166 人のうち 101 人、62%が死亡による退院と相変わらず断トツの死亡退院率である。看護者をみると、2013 年から更に看護者が少なくなっている。看護助手を含めた全看護者が 93 人から 72 人へ、有資格者が 24 人から 18 人となっている。この病院のもう一つの特徴が有資格看護者が際立って少ないことであるがその傾向は更に進んでいる。都の単科精神病院の有資格看護者対看護助手の比率は 76 対 24 であるが、この病院では 25 対 75 と逆転している。有資格看護者 1 人当たりの患者数 16 人は、都内最悪(都平均 3 人)。

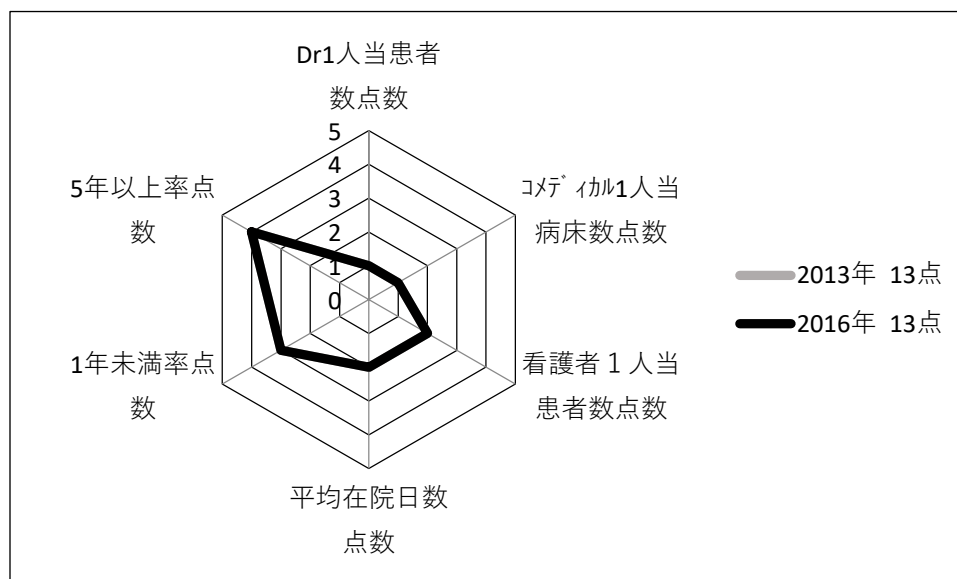
生活保護受給者の入院者が 165 人、61%と相変わらず多い(同 31%)。

5 年以上入院者率の点数が 4 点となっているのは、入院が長期化する前に、多くの人が死亡しているためと考えられる。

多くの病院では、地元の自治体からの入院者が一番多いが、ここでは、都内の各地、都外から入院している。特に大田区からの入院者が 15 人と最も多い。

八王子市の郊外に位置し、交通の便は、非常に悪い。外来も年間 12 人と無いに等しい。

内科 33 床を併設し、人工透析を行っている。



秋川病院 個人

あきる野市平沢 472

TEL 042-558-7211

精神科病床:2 病棟 110

開放病床 0 閉鎖病棟 110 保護室 3 施設できる個室 0

総合点 12 点

これまで 117 床だった病床数が 2016 年には 110 床に減っている。レーダーチャートの点数は 2013 年と全く同じであり、活動性、マンパワーに大きな変化はない。

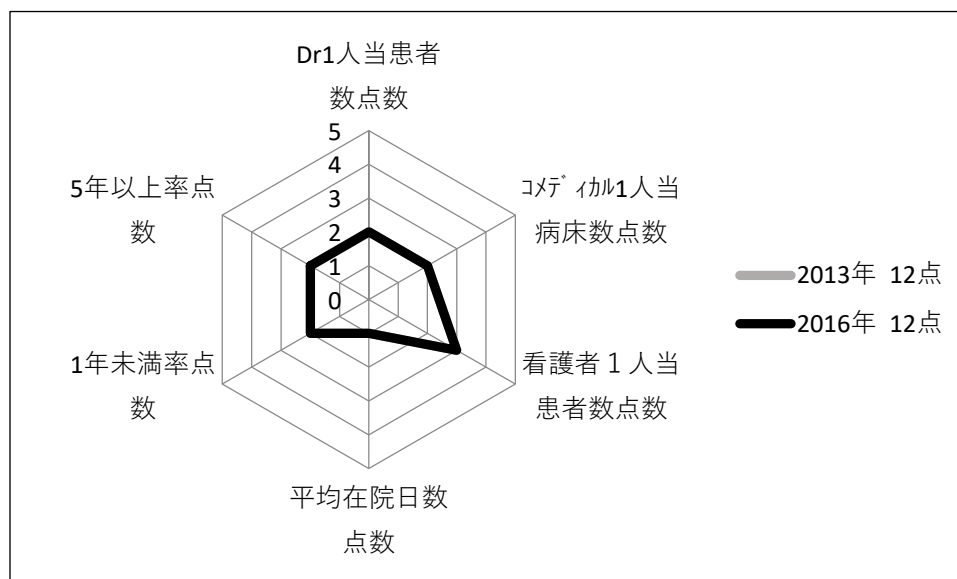
以前から統合失調症入院者が大半を占め、2016 年は 90%。他は気分障害と、脳器質性疾患。65 才以上率がこれまで 20% 台と低いのが特徴だったが、2016 年には 41% (都平均 51%) と高くなっている。死亡退院は変わらず 0 である。

マンパワーでは、常勤医師は 2 人のままで、医師 1 人当り患者数は 53 人 (同 27 人)。コメディカルはこれまでの PSW2 人に加え心理が 1 人となった。看護は、総数はさして変わらないが、2008 年 12 人だった正看護師が、13 年 18 人、今回 23 人と増えている。

2008 年に 674 日だった平均在院日数が、13 年に 1144 日となり、都平均の 5 倍もの著しい長期入院化と指摘したが、今回は 850 日 (都平均 217 日)。9 割を占める統合失調症入院者の平均在院日数は、13 年 1106 日から 890 日 (同 313 日) になった。以前から低かった生活保護の受給者率は今回 19.6% と 2 割を切った (同 31%)。任意入院は 47%。100% 閉鎖処遇であるのは変わらない。2016 年 6 月 30 日現在、隔離数 2、拘束数は 3 である。

入院患者の住所地を見ると、JR 五日市線沿線を中心に多摩地区が 101 人と大半である。この地域に数少ない精神科病院であり、地域からの入院患者を受け入れているが、以前は年間延べ 1 万件を超えていた外来は、2013 年の 8,500 件から 7,900 件にさらに減っている。

JR 五日市線東秋留駅から徒歩 20 分。



青梅厚生病院

個人

青梅市今井 1-2547

TEL 0428-31-7777

精神科病床:2 病棟 140

開放病床 70 閉鎖病床 70 保護室 7

総合点 8 点

青梅市東北部の埼玉県境にある。JR青梅線河辺駅と西武池袋線入間市駅の間にあり交通の便が悪い。

今期末の患者数 83 人、病床稼働率 59%と 2013 年の 66%よりも更に稼働率は下がっている。

マンパワーは医師 2 人、PSW2 人、看護者 16 人。2013 年と比べるとPSW2 人が増えているが、その代わり看護者が 2 人減っている。看護者一人当たりの患者数 5.2 人(都平均 2.2 人)は、相変わらず、都内ワースト1である。入院料は精神科のみに許される低い配置(精神科特例)より更に低い「特別入院基本料」(地方厚生局長等への届け出によって認められる)を採用している。平均在院日数 3318 日(同 217 日)、

5 年以上入院者 62 人、75%(同 29%)と超長期である。統合失調症の患者が 75 人、90%(同 64%)と多く、65 才以上の入院者は 34 人、41%(同 51%)と高齢者は比較的少ない。都外からの入院者が 39%(同 14%)と多い。年間外来者数は 1661 人と 2013 年の 2104 人より更に減っている。

なお、2021 年になって廃院となった。このような病院が敗因になったのは、あたり前と云えばあたり前だが、同様な病院がまだまだ残っているのは残念。

